

横浜市放課後キッズクラブ・放課後児童クラブの充実に向けた調査業務委託

報告書概要

2023年12月

【調査概要】

(1) 調査目的

横浜市では、全ての小学生に豊かな放課後を過ごせる場所と機会を提供するとともに、留守家庭の子どもたちの居場所を充実させるため、小学校施設を活用した「放課後キッズクラブ」の全校展開と、「放課後児童クラブ」に対して必要な設備や運営の支援を進め、両事業を軸として、放課後の居場所の拡充に取り組んできた。これまでの質の向上の取り組みとして、保護者負担減免世帯の拡充(令和3年度)、放課後キッズクラブにおける短時間の預かりニーズに対応した区分の創設(令和3年度)、学校休業日における朝の開所時間の前倒し(令和4年度)等の見直しを行ったところである。

本調査は、「子育てしたいまち 次世代を共に育むまち ヨコハマ」の実現に向け、現状やニーズを把握しながら、更なる質の向上に向けた施策の検討を実施することを目的とする。

(2) 調査方法

アンケート調査

【児童調査】

- 対象： 横浜市内の放課後キッズクラブ・放課後児童クラブ90か所(抽出)を利用する児童 3,237人
- 方法： クラブに紙の調査票を送付し、クラブ利用中に記入をして郵送回収
- 期間： 令和5年7月5日(水)～7月28日(金)
- 回答： 2,331件(回答率72.0%) ※R5.4.1時点の登録児童数に対する回答率

【保護者調査】

- 対象： 横浜市内の放課後キッズクラブ・放課後児童クラブ90か所(抽出)を利用する保護者 11,823人
- 方法： 紙の案内状をクラブ経由で配布し、保護者はWEBで回答
- 期間： 令和5年7月5日(水)～7月28日(金)
- 回答： 3,254件(回答率27.5%) ※R5.4.1時点の登録児童数に対する回答率

【クラブ調査】

- 対象： 横浜市内の放課後キッズクラブ・放課後児童クラブ558か所(悉皆)
- 方法： 横浜市放課後児童育成課よりメールで案内を送付し、WEBで回答
- 期間： 令和5年7月5日(水)～7月28日(金)
- 回答： 454件(回答率81.4%)

【調査概要】

(2) 調査方法

ヒアリング調査

【児童調査】

- 対象： 横浜市内の放課後キッズクラブ21か所を利用する児童 95人
- 方法： 放課後児童育成課職員によるヒアリング
- 期間： 令和5年10月3日(火)～10月16日(月)
- 項目： キッズクラブの楽しさ、キッズクラブへのお願い

【保護者調査】・【クラブ調査】

- 対象： 横浜市内放課後キッズクラブ(3か所)、放課後児童クラブ(2か所)、及び保護者(各箇所3～4人程度計16人)
- 方法： 当社研究員、放課後児童育成課職員によるクラブへの訪問での聞き取り
- 期間： 令和5年10月10日(火)～10月18日(水)
- 項目： 【保護者】小1の壁などで困ったこと、クラブや子どもに関する施策への希望等
【クラブ】長期休業期間中の昼食提供、平日朝の時間帯の預かり等

他都市調査

【アンケート調査】

- 対象： 政令市・特別区34か所、近隣自治体16か所
- 方法： 横浜市放課後児童育成課によるメール送付・回収
- 期間： 令和5年5月1日(月)～5月17日(水)
- 回答： 政令市・特別区34件、近隣市15件

【デスクトップ調査】

- 方法： 他都市の取組をインターネット上で検索・収集
- 項目： 長期休業期間中の昼食提供、平日朝の時間帯の預かり等

海外調査

- 対象： フランス、スウェーデン、フィンランド、イギリス、ドイツ、オーストラリア、台湾、アメリカ、韓国、中国
- 方法： 日本語または英語で閲覧可能な文献について、インターネット上で検索・収集
- 項目： 放課後活動の目的、事業名、対象年齢、開所時間、食事提供の有無、特徴等

※以降に記載のページ数は、全体版報告書の掲載ページを指すものとする。

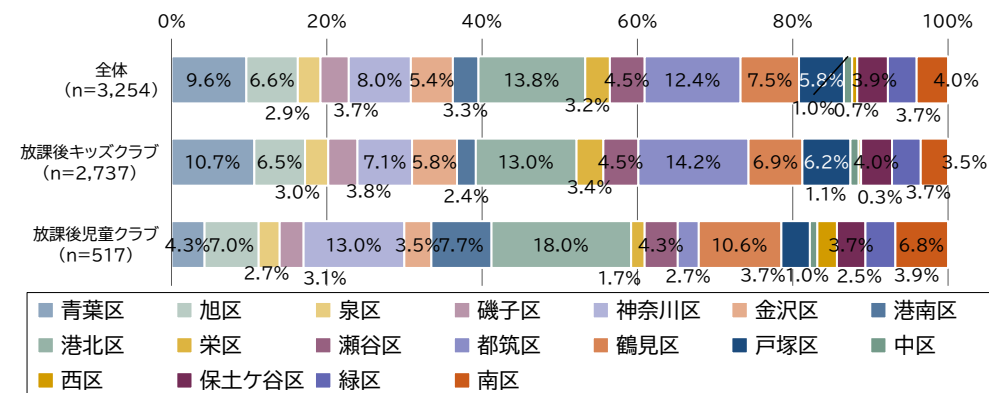
アンケート調査回収状況

保護者調査（18ページ）

<クラブ種別・区分での回収状況>

種別	配布想定数	回答数（回収率）
放課後キッズクラブ	10,503人	2,737人（26.1%）
わくわく【区分1】	4,203人	838人（19.1%）
すくすく・ゆうやけ【区分2A】	4,383人	1,259人（28.7%）
すくすく・ほしぞら【区分2B】	1,917人	675人（35.2%）
放課後児童クラブ	1,320人	517人（39.2%）

<所在地>

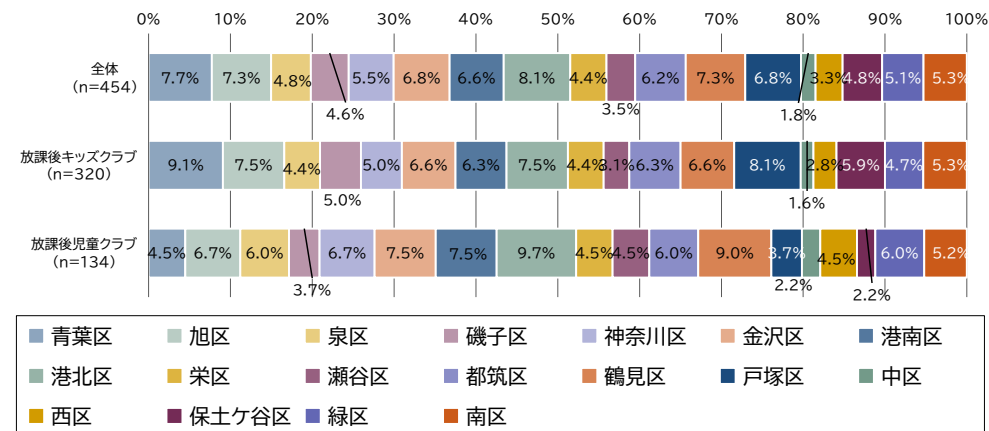


クラブ調査（77ページ）

<クラブ種別での回収状況>

種別	配布数	回答数（回収率）
放課後キッズクラブ	338件	320件（94.7%）
放課後児童クラブ	220件	134件（60.9%）

<所在地>



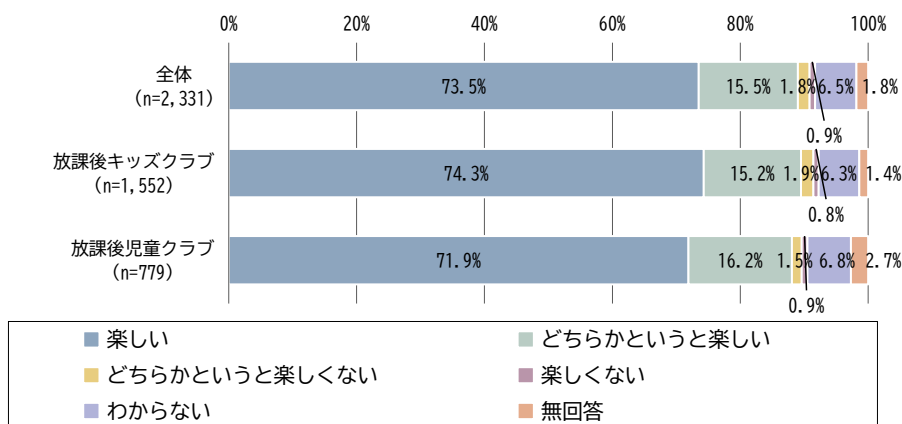
1. 児童アンケート調査結果

(1) クラブの満足度

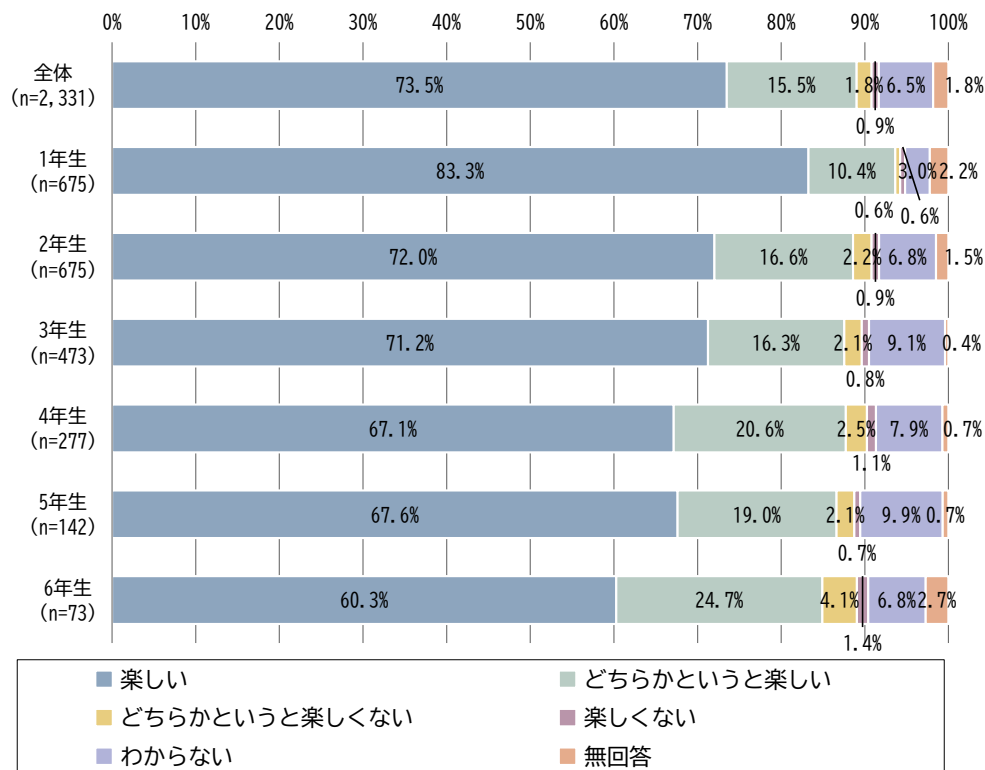
- 児童調査では、クラブ種別を問わず「楽しい」「どちらかという楽しい」割合が8割超で、ほとんどの児童は楽しく放課後を過ごしていると推察された。
- 学年別に見ると、楽しいの割合は1年生が最も高く、学年が上がるほど「楽しい」の割合が低下し、「どちらかという楽しい」の割合が増加する傾向が見られた。また、全学年で「楽しい」「どちらかという楽しい」の割合は8割を超えており、「どちらかという楽しくない」「楽しくない」を合わせた割合は最も多い6年生でも5.5%にとどまった。

児童調査_クラブの満足度

■ クラブ種別 (4ページ)



■ 学年別 (5ページ)



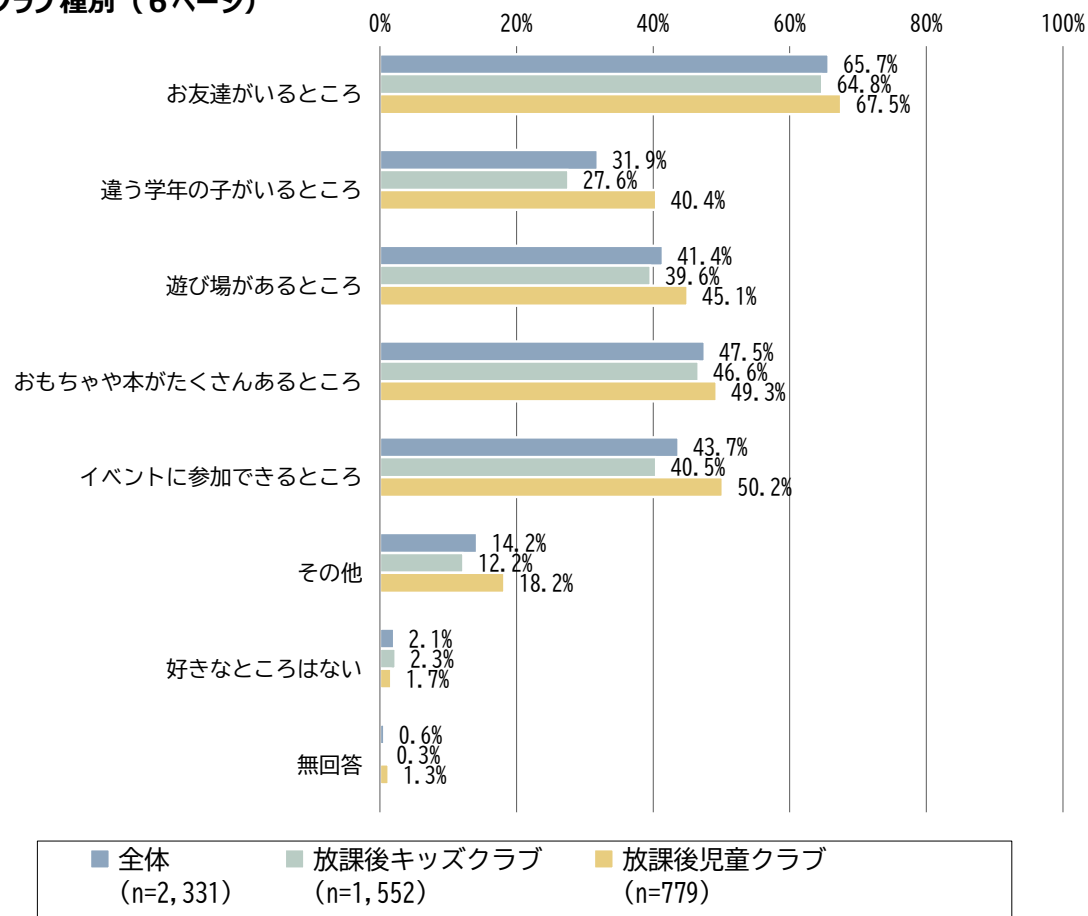
1. 児童アンケート調査結果

(1) クラブの満足度

■ クラブの好きなところは、「お友達がいるところ」が65.7%で最も高く、次いで「おもちゃや本がたくさんあるところ」(47.5%)、「イベントに参加できるところ」(43.7%)、「遊び場があるところ」(41.4%)であった。クラブ種別では、放課後児童クラブの方が多くの点を好きなところとして回答する傾向がみられた。

児童調査_クラブの好きなところ

■ クラブ種別 (6ページ)

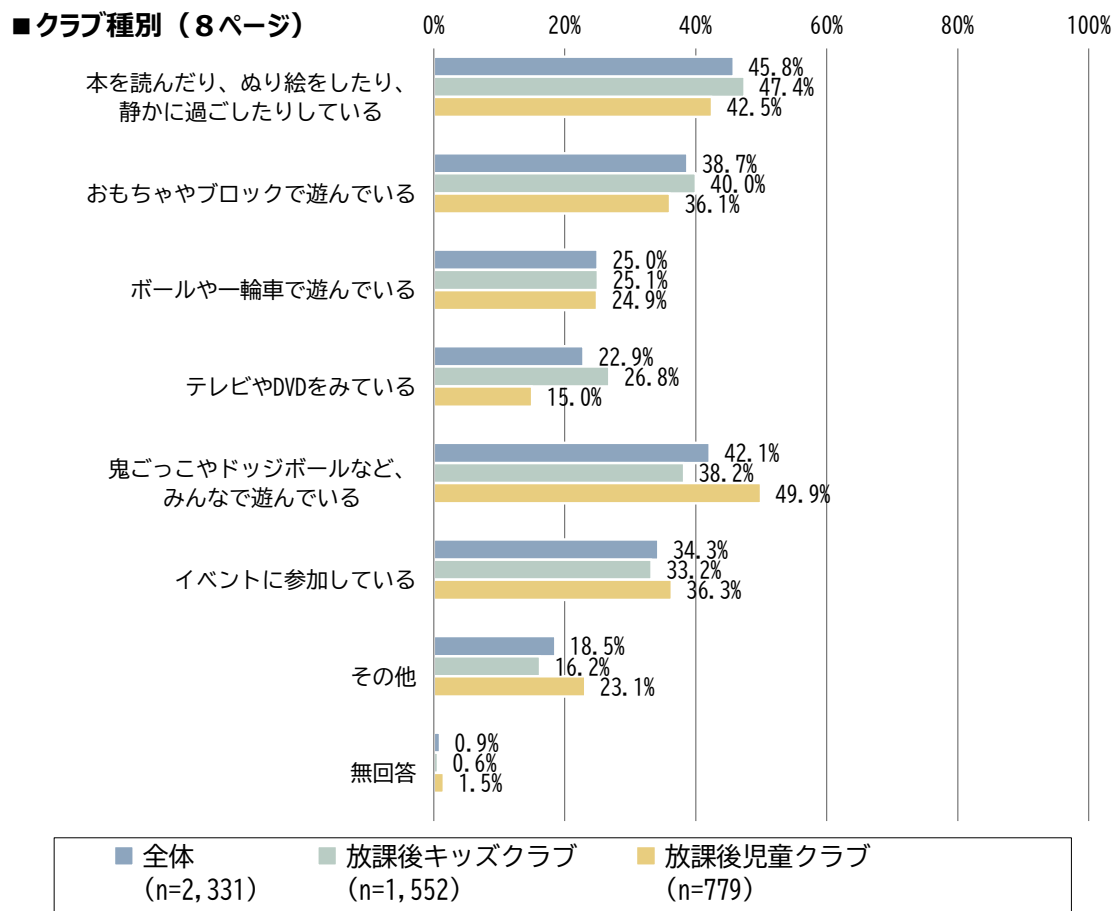


1. 児童アンケート調査結果

(1) クラブの満足度

■ クラブにいるときに、何をしていることが多いかという問いに対して、「本を読んだり、ぬり絵をしたり、静かに過ごしたりしている」が45.8%、「鬼ごっこやドッジボールなど、みんなで遊んでいる」が42.1%、「おもちゃやブロックで遊んでいる」が38.7%、「イベントに参加している」が34.3%となっており、様々なことに取り組んでいた。クラブ種別の違いは総じて顕著ではないが、「鬼ごっこやドッジボールなど、みんなで遊んでいる」、「イベントに参加している」について、放課後児童クラブの回答割合が高かった。

児童調査_クラブにいるときに、何をしていることが多いですか

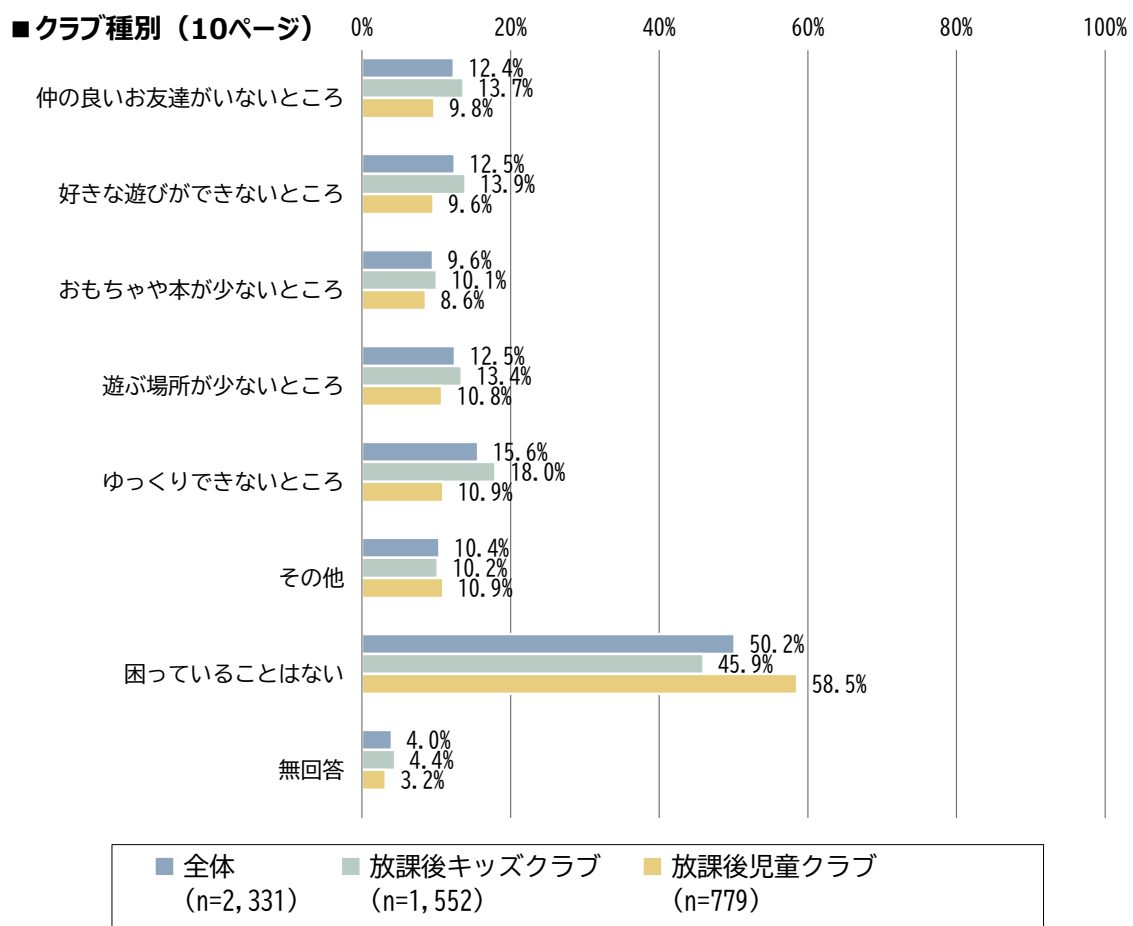


1. 児童アンケート調査結果

(1) クラブの満足度

■ クラブの生活で困ることや、「いやだな」「かえてほしいな」と思うことは、「困っていることはない」は50.2%で最も多かった。次いで、「ゆっくりできないところ」が15.6%と最も高いが、「好きな遊びができないところ」及び「遊ぶ場所が少ないところ」が12.5%、「仲のよいお友達がないところ」が12.4%など、各項目いずれも10%前後と特定の項目には集中していない。クラブ種別では、放課後児童クラブでは「困っていることはない」が58.5%と高い。

児童調査_クラブの生活で困ることや、「いやだな」「かえてほしいな」と思うこと

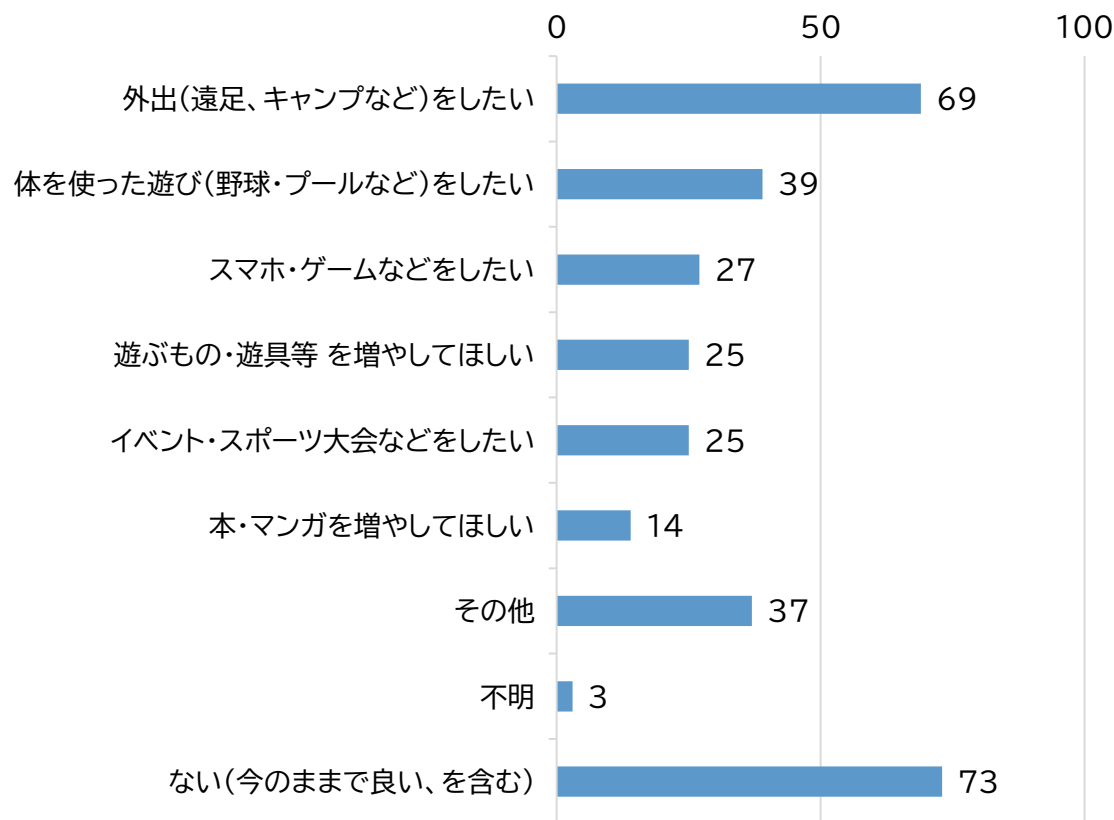


1. 児童アンケート調査結果

(1) クラブの満足度

- クラブで「あったらいいな」「やってみたいな」と思うことは、「外出(遠足・キャンプなど)をしたい」が最も多く、次いで、「体を使った遊び(野球・プールなど)をしたい」が多くなっている。

児童調査_クラブで「あったらいいな」「やってみたいな」と思うこと (自由記述) (12ページ)



(備考) 回答のあった300件を抽出し、自由記述回答を回答内容に応じて分類したものである。なお、一件の自由回答の中で、複数の内容・項目の記載がある場合(複数回答)がある。

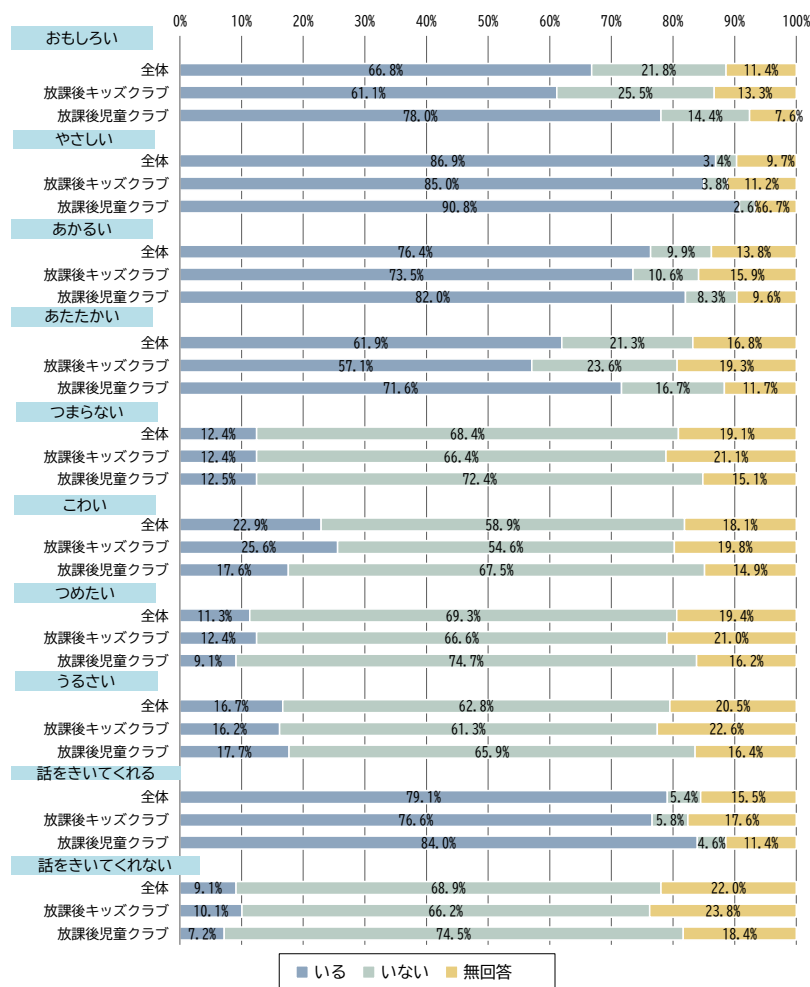
1. 児童アンケート調査結果

(1) クラブの満足度

■ クラブにはどんな大人がいるかの問いに対して、「やさしい」(86.9%)、「話を聞いてくれる」(79.1%)、「明るい」(76.4%)の割合が高い一方で、「話を聞いてくれない」(9.1%)、「つめたい」(11.3%)、「つまらない」(12.4%)の割合が低かった。

児童調査_クラブにはどんな大人がいますか

■ クラブ種別 (15ページ)



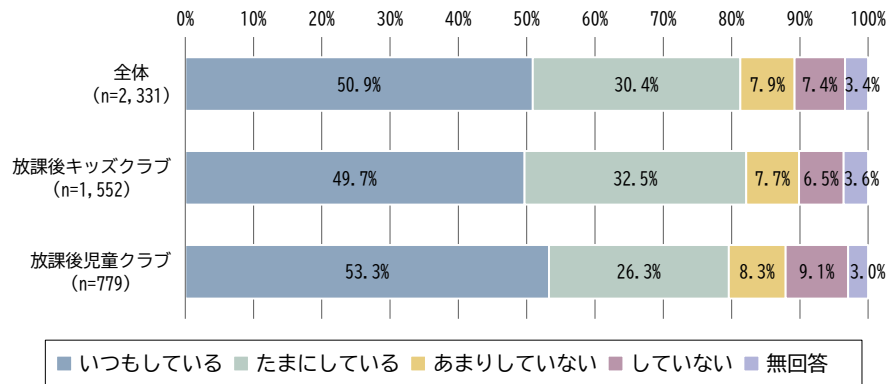
1. 児童アンケート調査結果

(2) クラブでの宿題の取組状況

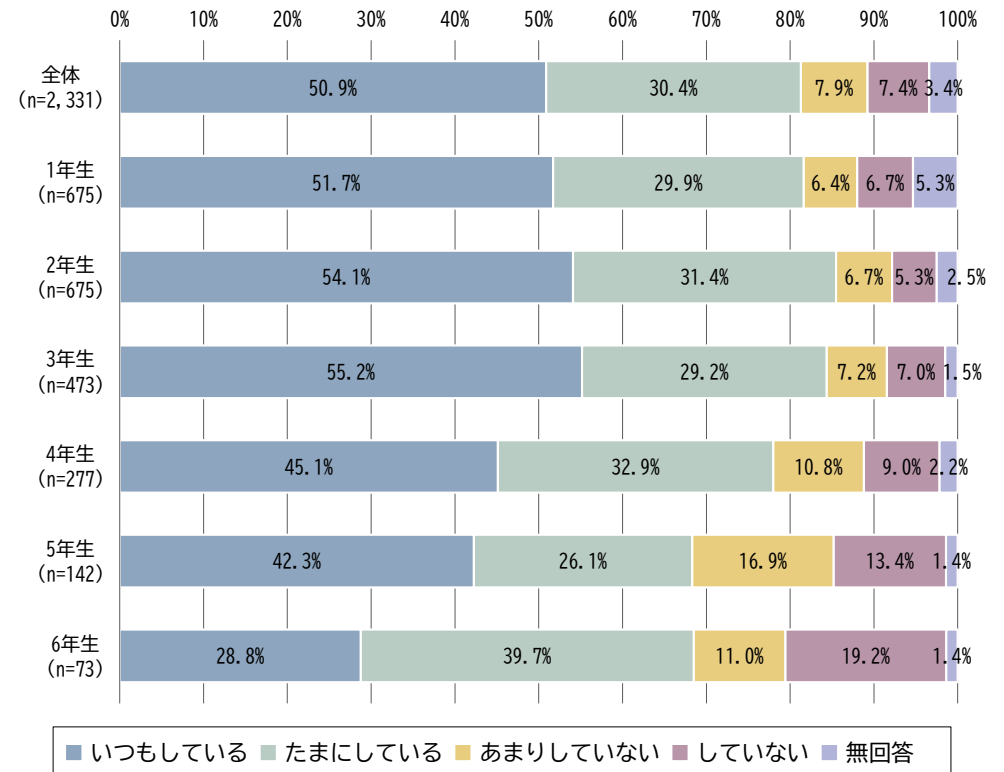
- クラブでの宿題の取組状況は、「いつもしている」が50.9%、「たまにしている」が30.4%が多かった。
- クラブ種別にみると、放課後児童クラブでは「いつもしている」割合が53.3%と、相対的にやや高かった。学年別に見ると、低学年ほど「いつもしている」の割合が高く、小学3年生までは5割を超えていた。

児童調査_クラブでの宿題の取組状況

■ クラブ種別 (13ページ)



■ 学年別 (14ページ)

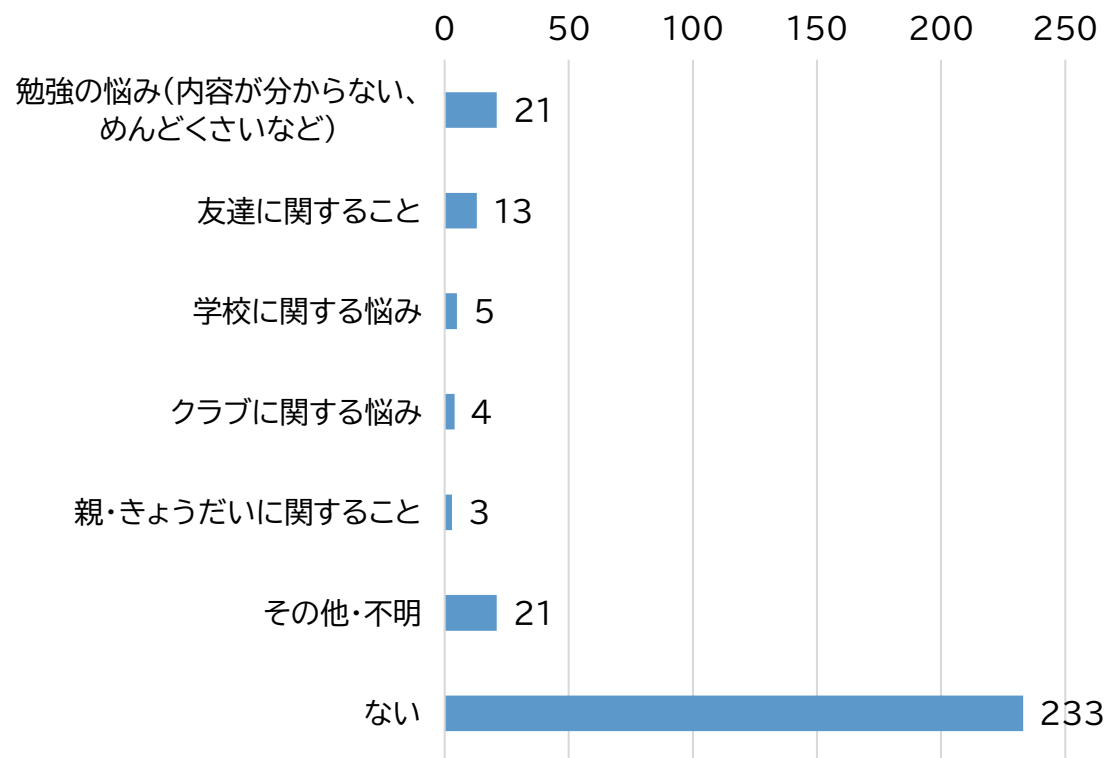


1. 児童アンケート調査結果

(3) クラブ以外の生活や勉強で困っていること

- クラブ以外の生活や勉強で困っていることについては、「ない」が最も多い。困っているものとしては、「勉強の悩み(内容が分からない、めんどくさいなど)」が最も多く、次いで、「友達に関すること」が多くなっている

児童調査_クラブ以外の生活や勉強で困っていること (自由記述) (17ページ)



(備考) 回答のあった300件を抽出し、自由記述回答を回答内容に応じて分類したものである。

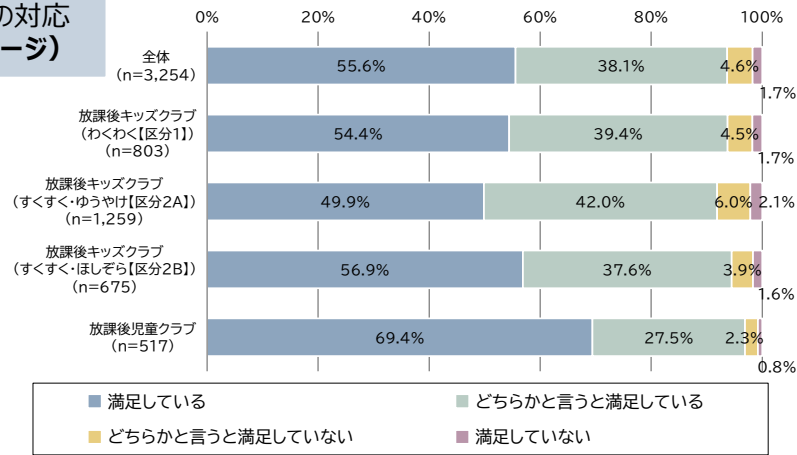
2. 保護者アンケート調査結果

(1) クラブの満足度

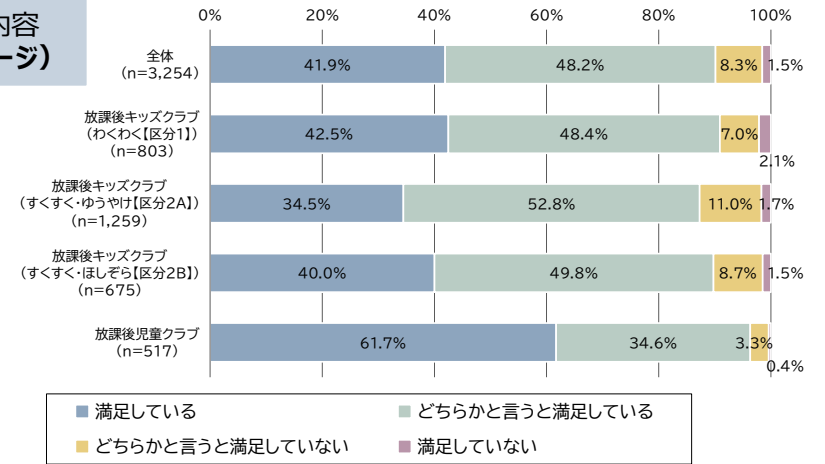
- 保護者調査では、いずれの項目も「満足している」「どちらかと言うと満足している」割合の合計が約9割と高く、クラブに対する評価は高いと考えられた。クラブ種別・区分別に見ると、放課後児童クラブではいずれの項目でも「満足している」の割合が高い。

保護者調査_クラブの満足度

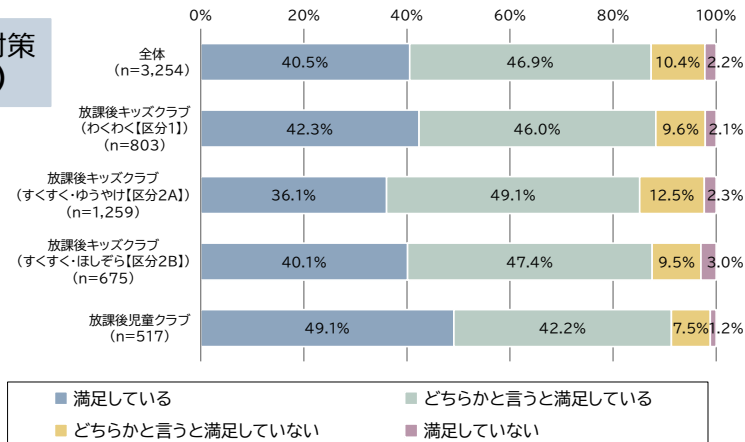
スタッフの対応 (24ページ)



活動内容 (25ページ)



環境や安全対策 (25ページ)



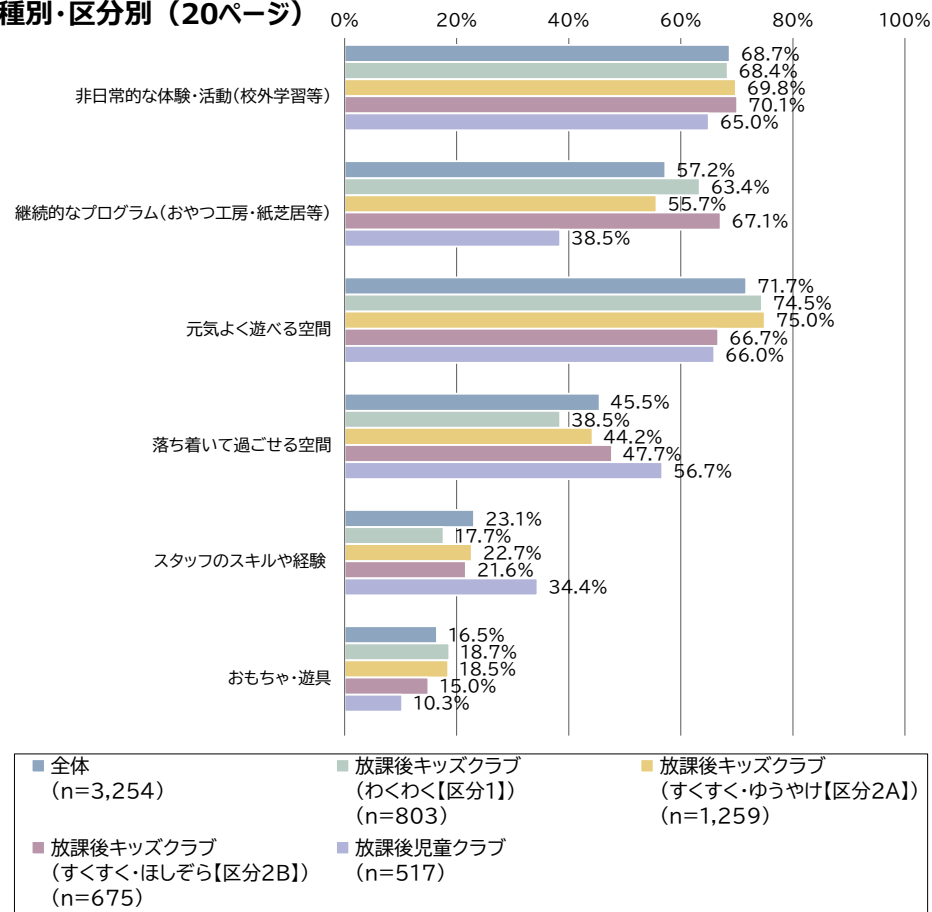
2. 保護者アンケート調査結果

(2) 子どもがクラブに「もっと行きたい」と思えるように充実するとよいもの

- 子どもが通うクラブで充実するとよいものについて1位から3位までを尋ねた結果、1位から3位までを合わせると、「元気よく遊べる空間」が71.7%と最も高く、次いで「非日常的な体験・活動(校外学習等)」が68.7%、「継続的なプログラム(おやつ工房・紙芝居等)」が57.2%と続いた。
- クラブ種別・区分別に大きな違いはみられないが、放課後キッズクラブでは、区分によらず「非日常的な体験・活動(校外学習等)」 「継続的なプログラム(おやつ工房・紙芝居等)」の割合が放課後児童クラブでの割合に比べてやや高くなっている。

保護者調査_子どもがクラブに「もっと行きたい」と思えるように充実するとよいもの (第1~3位の合計)

■ クラブ種別・区分別 (20ページ)



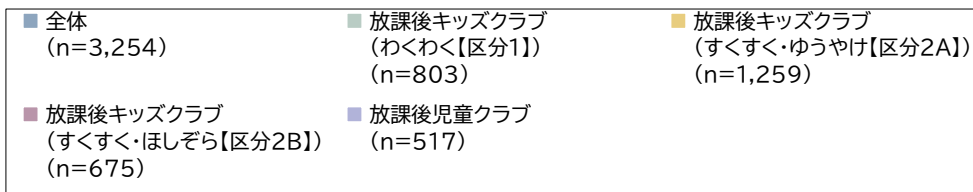
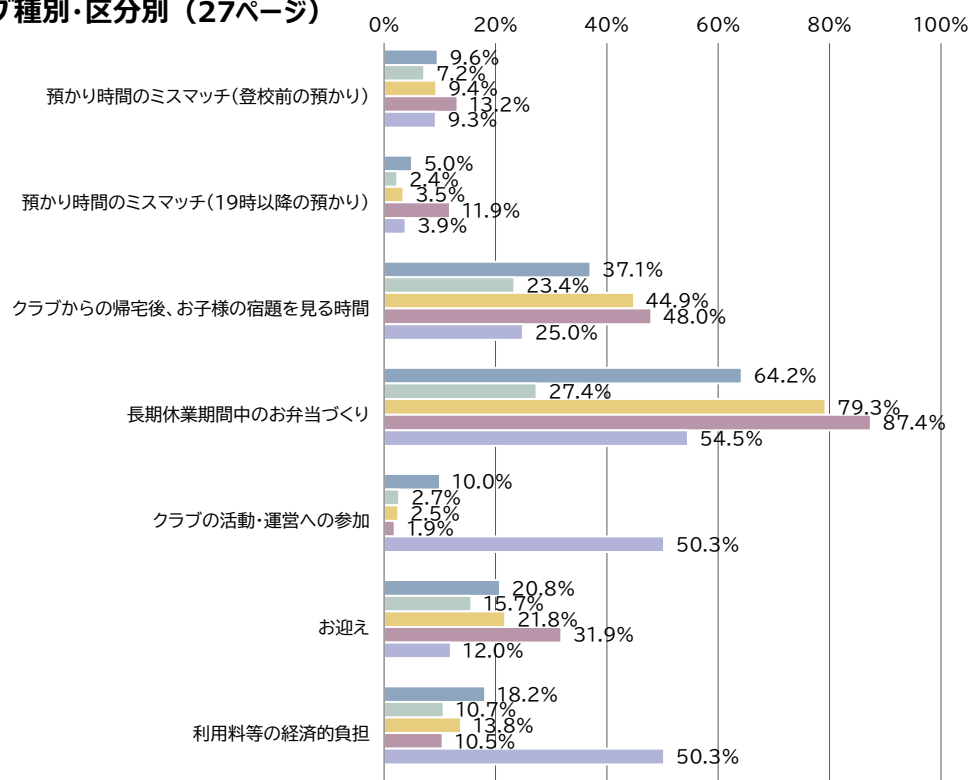
2. 保護者アンケート調査結果

(3)-1 保護者の負担感(総論)

- 保護者の感じる負担の第1位～第3位を尋ねたところ、「長期休業期間中のお弁当づくり」、「クラブから帰宅後、お子様の宿題を見る時間」が順に多かった。また、放課後児童クラブでは、次いで、「クラブの活動・運営への参加」「利用料等の経済的負担」が半数を超えており、制度や運営形態に基づく負担感の大きさがうかがえた。

保護者調査_保護者が感じる負担 (第1～3位の合計)

■ クラブ種別・区分別 (27ページ)



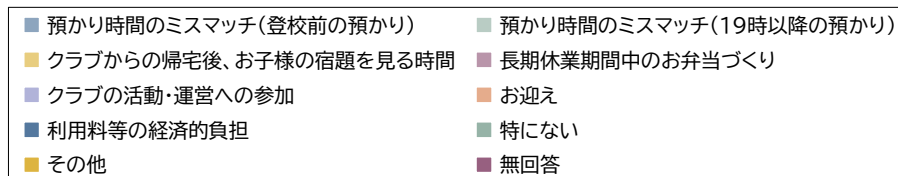
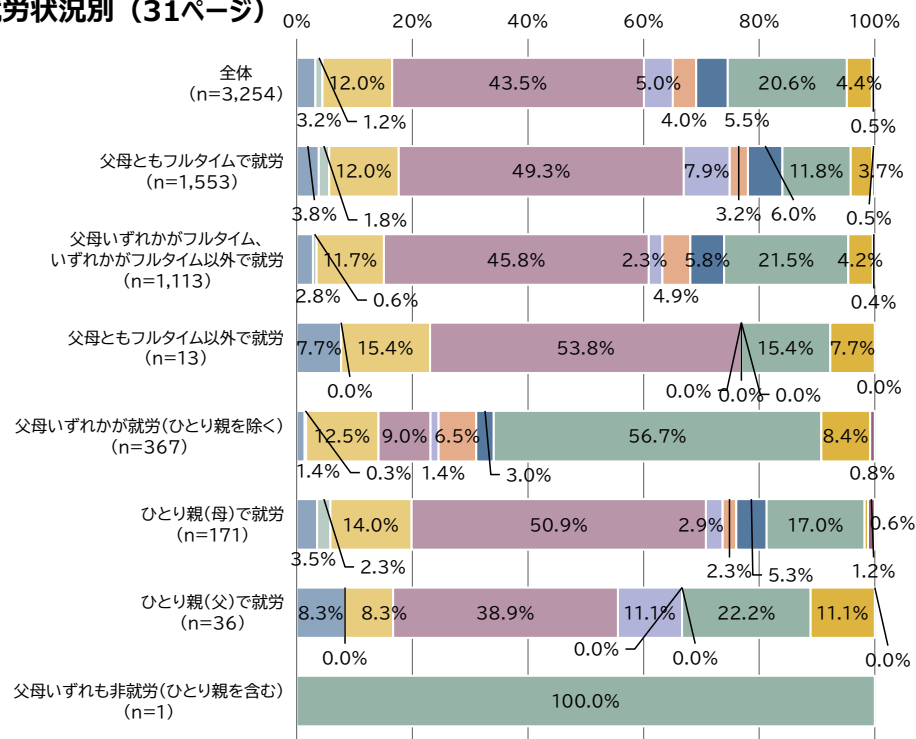
2. 保護者アンケート調査結果

(3)-1 保護者の負担感(総論)

- 保護者の就労状況別に負担の1位をみると、「父母ともフルタイムで就労」(49.3%)、「父母いずれかがフルタイム、いずれかがフルタイム以外で就労」(45.8%)、「父母ともフルタイム以外で就労」(53.8%)、「ひとり親(母)で就労」(50.9%)、「ひとり親(父)で就労」(38.9%)では、「長期休業期間中のお弁当づくり」が最も高くなっている。

保護者調査_保護者が感じる負担(第1位)

■ 父親・母親の就労状況別(31ページ)



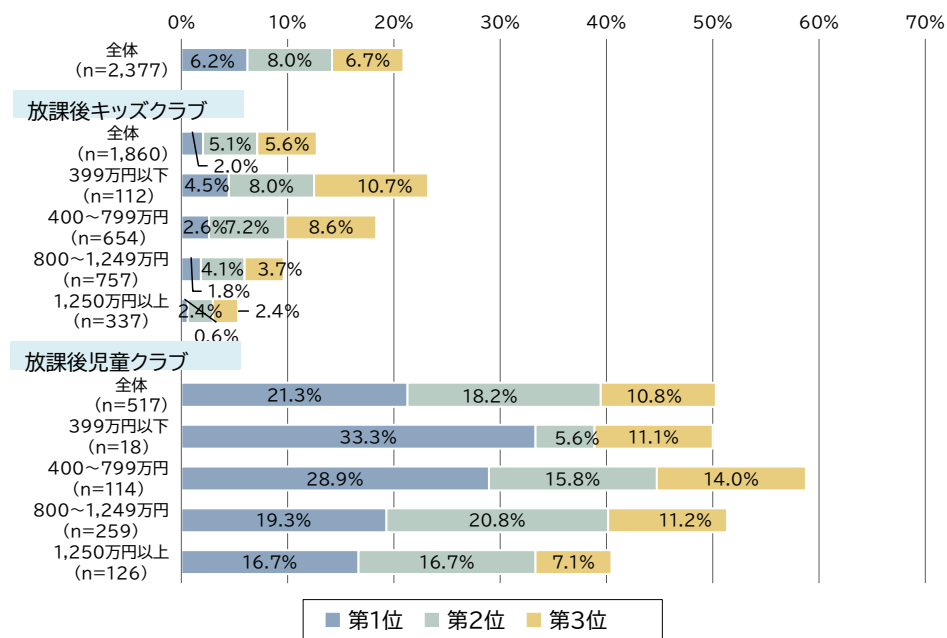
2. 保護者アンケート調査結果

(3)-2 保護者の負担感(利用料等の経済的負担)

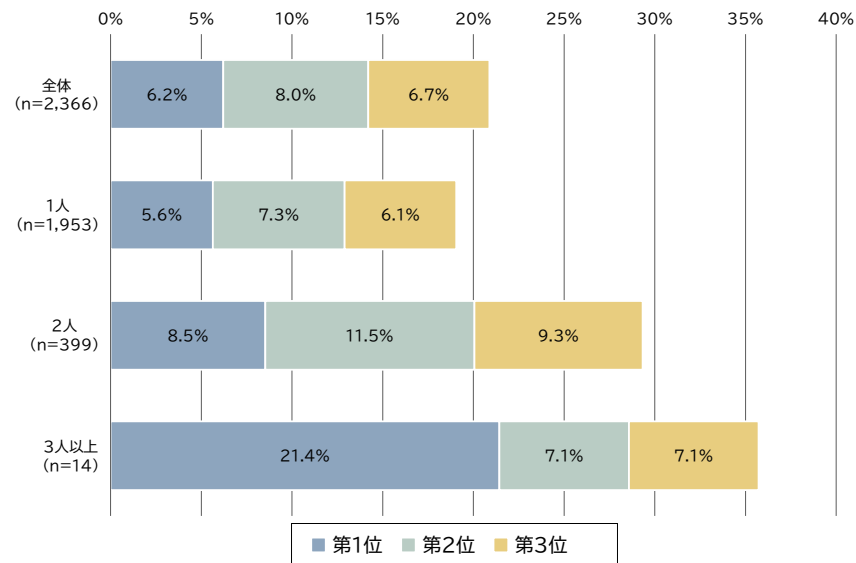
- 「利用料等の経済的負担」を第1位～第3位のいずれかで選択した割合は、留守家庭世帯では、全体で見ると20%程度となっている。クラブ種別・世帯年収別にみると、放課後キッズクラブでは、世帯年収が下がるに従い割合が上昇し、399万円以下では20%を超えた。放課後児童クラブについては、399万円以下のサンプル数が少ないため留意が必要だが、世帯年収が400～799万円では60%近くと非常に高く、年収が上がるに従い割合が低下するものの、1,250万円以上でも40%を超えていた。
- 子どもの人数別にみると、子どもの人数が多い家庭ほど負担を感じていた。

利用料等の経済的負担を第1～3位で選択した割合

■ クラブ種別・世帯年収別 (33ページ)



■ 子どもの人数別 (34ページ)



(備考) 両グラフとも、わくわく【区分1】と減免を受けているすくすく・ゆうやけ【区分2A】を除く世帯が対象

(備考) 子どもの人数は11人が無回答

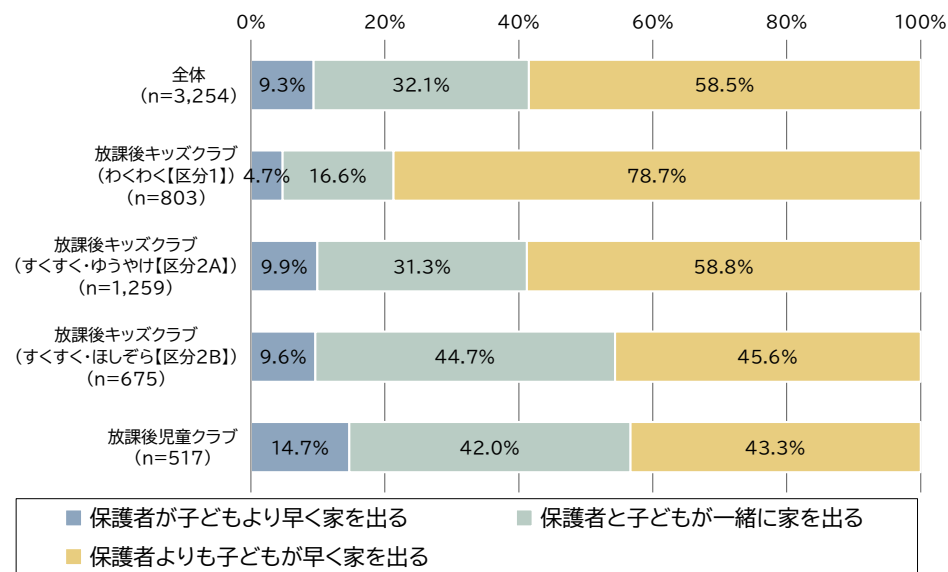
2. 保護者アンケート調査結果

(4)-1 支援ニーズ(登校前の預かり)

- クラブ種別・区分別に見ると、預かり時間が長いクラブ・区分ほど、「保護者が子どもより早く家を出る」「保護者と子どもと一緒に家を出る」割合が高くなっている。
- 保護者が子どもより早く家を出る家庭では、「子どもが自分で施錠して登校している」の割合が最も高く、64.8%であった。クラブ種別・区分別に見ると、放課後児童クラブでその割合が78.9%と高かった。

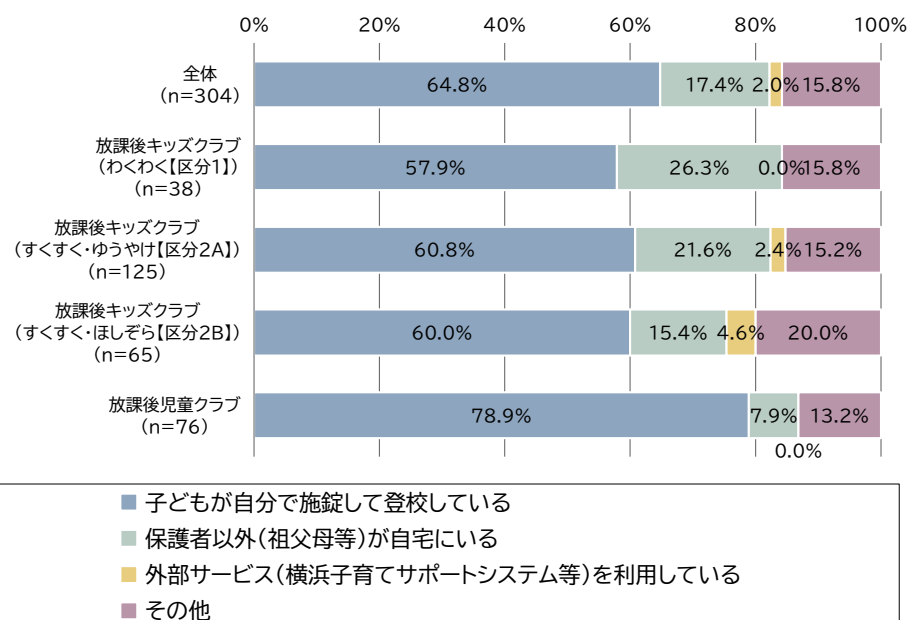
保護者調査_平日の登校状況

■ クラブ種別・区分別 (35ページ)



保護者調査_保護者が子どもより早く家を出る場合の状況

■ クラブ種別・区分別 (36ページ)



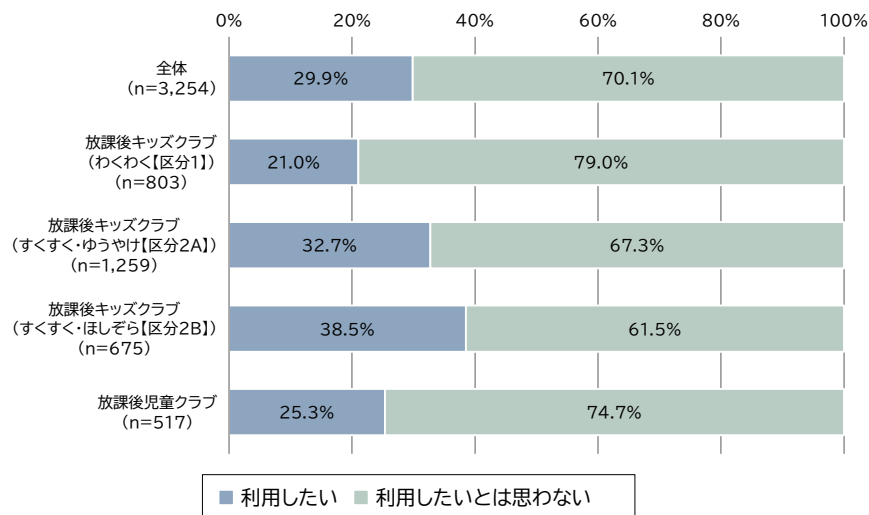
2. 保護者アンケート調査結果

(4)-1 支援ニーズ(登校前の預かり)

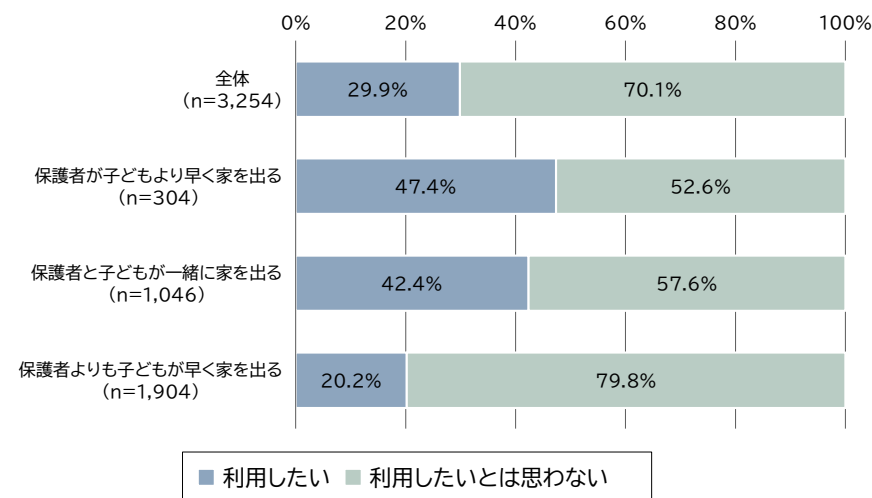
- 登校前の預かりサービスを「利用したい」と回答したのは29.9%であった。クラブ種別・区分別に見ると、放課後キッズクラブのすくすく・ゆうやけ【区分2A】、すくすく・ほしぞら【区分2B】でのニーズが高く、平日の登校状況別に見ると、「保護者が子どもより早く家を出る」「保護者と子どもと一緒に家を出る」を選択した場合での利用意向が高かった。
- 希望時間としては、7時30分からが最も多く、7時30分からの預かりを行うことで66.4%、7時からの預かりで95.6%のニーズを満たすことが分かった。また、週の希望回数は、「週5回」が34.4%と最も多かったが、1~5回まで幅広い希望が見られた。

保護者調査_朝の預かりサービスの利用希望

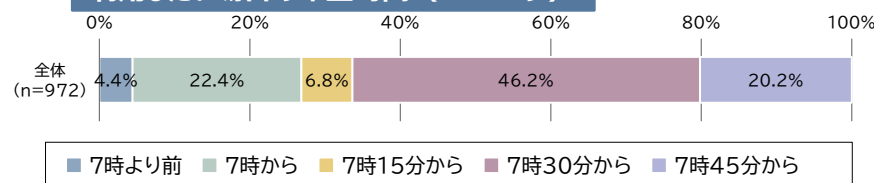
■ クラブ種別・区分別 (37ページ)



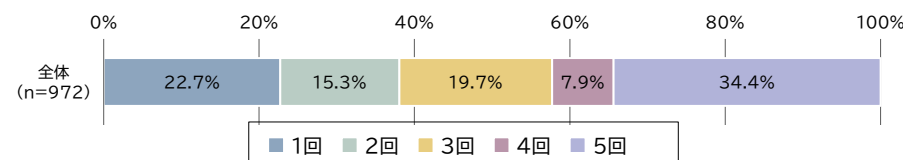
■ 平日の登校状況別 (39ページ)



利用したい場合の希望時間 (47ページ)



利用したい場合の週の希望回数 (48ページ)



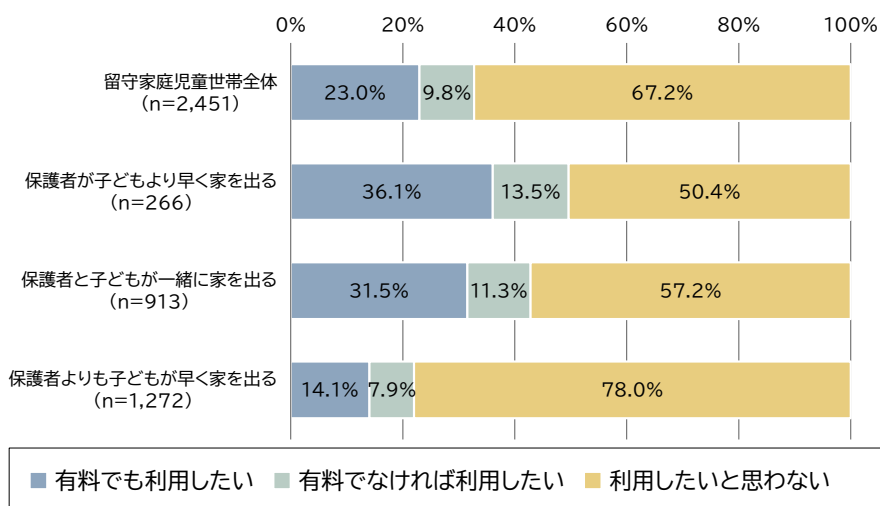
2. 保護者アンケート調査結果

(4)-1 支援ニーズ(登校前の預かり)

- 留守家庭児童世帯に限定して登校前の預かりサービスの利用希望を確認したところ、利用意向のある家庭の割合は、保護者が子どもより早く家を出る場合で49.6%、保護者と子どもと一緒に家を出る場合で42.8%と高かった。
- 通勤時間の代理変数として、留守家庭児童世帯におけるクラブの所在地から品川駅までの所要時間別に利用意向をみると、1時間16分以上の場合に40.9%と最も高かった。

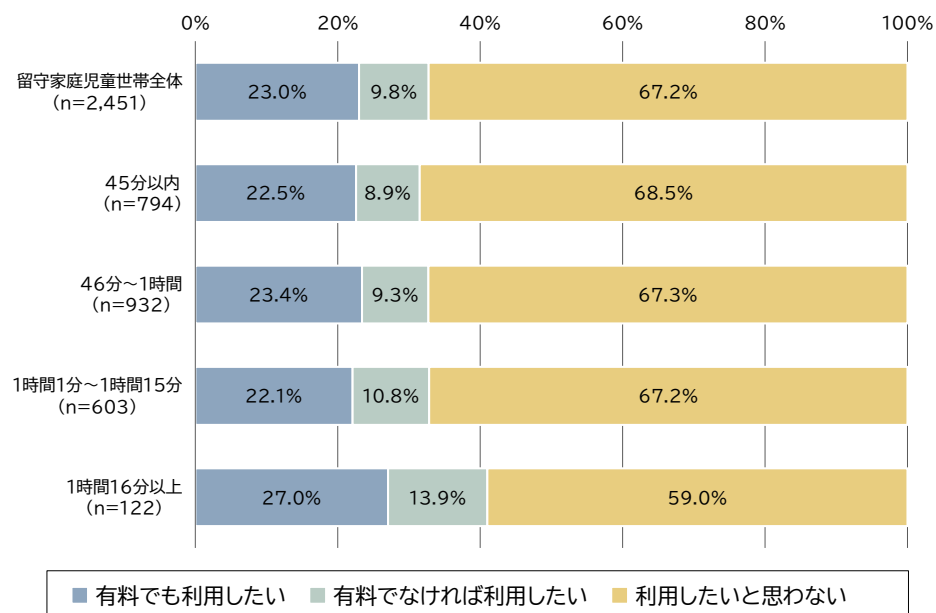
保護者調査_留守家庭児童世帯における朝の預かりサービスの利用希望

■ 平日の登校状況別 (42ページ)



(備考) 留守家庭児童世帯は、放課後キッズクラブのすくすく・ゆうやけ【区分2A】、すくすく・ほしぞら【区分2B】、放課後児童クラブの児童がいる世帯である。

■ クラブ～品川駅までの移動時間別 (45ページ)



(備考) 留守家庭児童世帯は、放課後キッズクラブのすくすく・ゆうやけ【区分2A】、すくすく・ほしぞら【区分2B】、放課後児童クラブの児童がいる世帯である。

(備考) 利用するクラブから公共交通機関を利用し、平日の朝8時20分に品川駅まで移動する場合にかかる時間を算出した

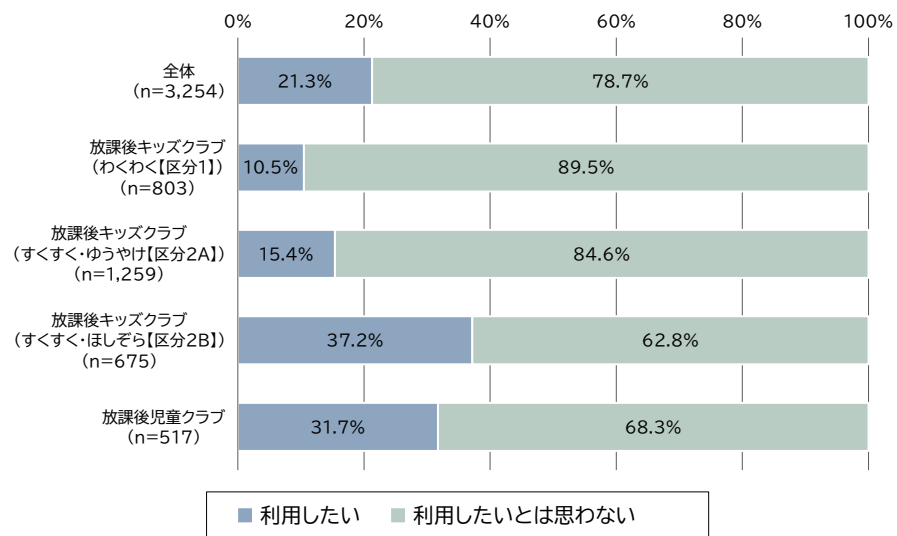
2. 保護者アンケート調査結果

(4)-2 支援ニーズ(夜間の預かり)

- 夜間の預かりサービスの利用希望は全体では21.3%だが、19時まで利用できる放課後キッズクラブのすくすく・ほしぞら【区分2B】、放課後児童クラブで相対的にニーズが高く、現在の預かり時間では十分でない家庭が一定数存在すると考えられた。
- 利用したい希望の時間は、種別・区分別を問わず、20時までで約8割を占めた。

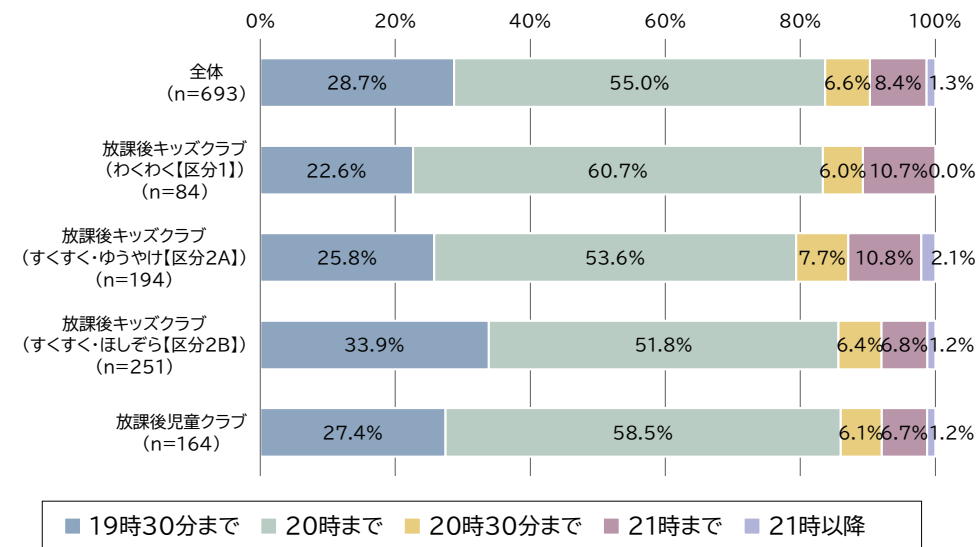
保護者調査_19時以降の預かりサービスの利用希望

■ クラブ種別・区分別 (49ページ)



利用したい場合の希望時間

■ クラブ種別・区分別 (50ページ)



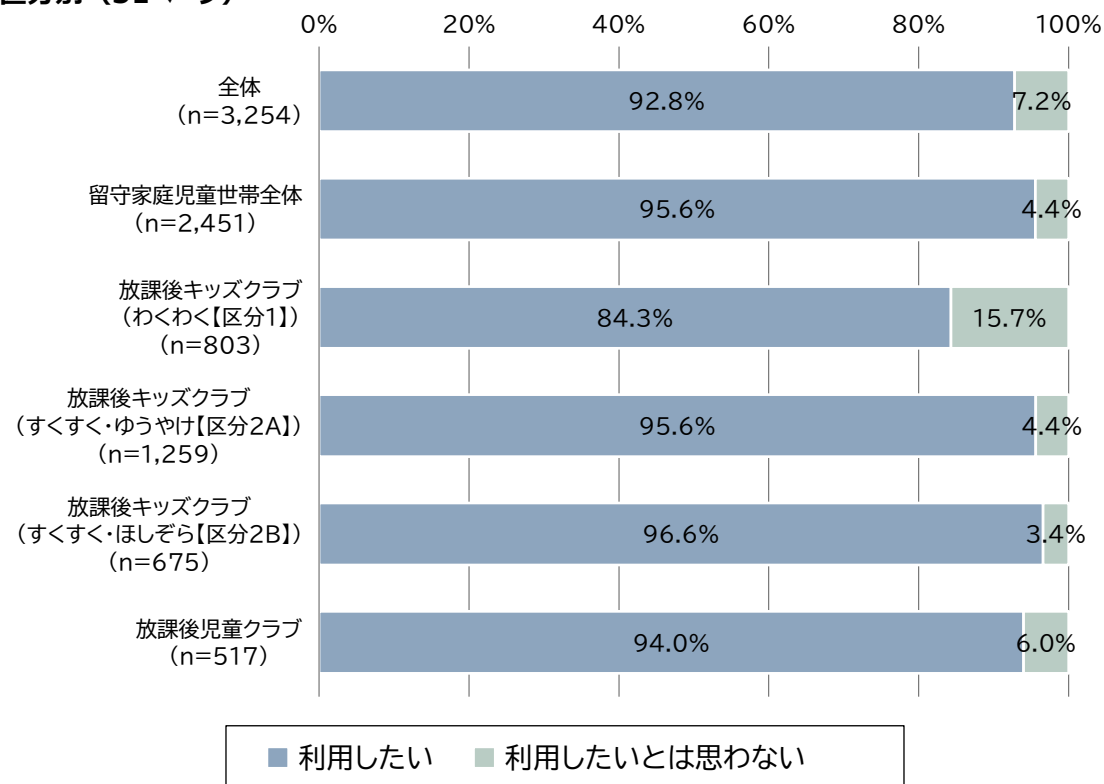
2. 保護者アンケート調査結果

(4)-3 支援ニーズ(長期休業期間中の昼食提供)

- 長期休業期間中の昼食提供はニーズが高く、92.8%が利用を希望していた。特に、留守家庭児童が利用するクラブ種別・区分別では、放課後キッズクラブのすくすく・ゆうやけ【区分2A】が95.6%、すくすく・ほしぞら【区分2B】が96.6%、放課後児童クラブが94.0%と、ニーズが高く、長期休業期間中の昼食提供は留守家庭児童世帯に対する支援効果が高いと推察される。

保護者調査_長期休業期間中の昼食提供の利用意向

■ クラブ種別・区分別 (51ページ)



(備考) 留守家庭児童世帯は、放課後キッズクラブのすくすく・ゆうやけ【区分2A】、すくすく・ほしぞら【区分2B】、放課後児童クラブの児童がいる世帯である。

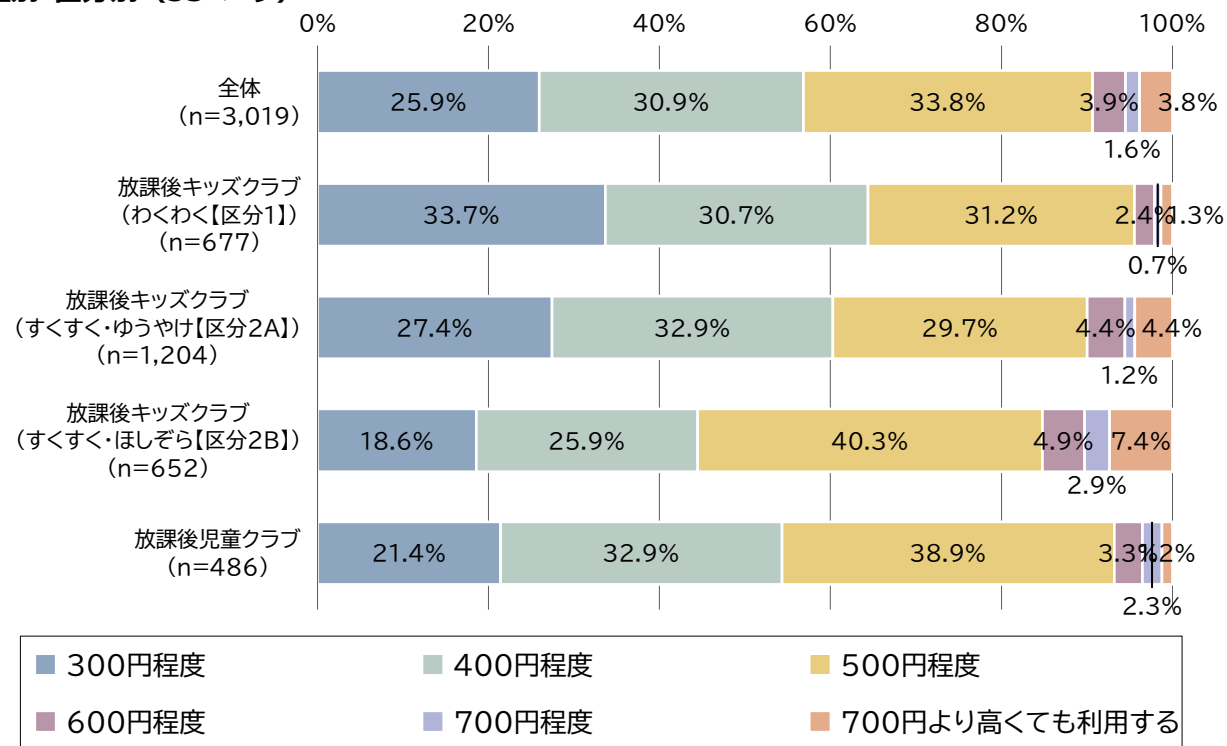
2. 保護者アンケート調査結果

(4)-3 支援ニーズ(長期休業期間中の昼食提供)

- 利用料金の上限は、300円程度～500円程度が約9割を占めた。
- クラブ種別・区分別に見ると、放課後キッズクラブのすくすく・ほしぞら【区分2B】、放課後児童クラブは500円程度以上とした割合が、相対的に高い傾向が見られた。

保護者調査_昼食提供サービスの利用料金上限

■ クラブ種別・区分別 (53ページ)



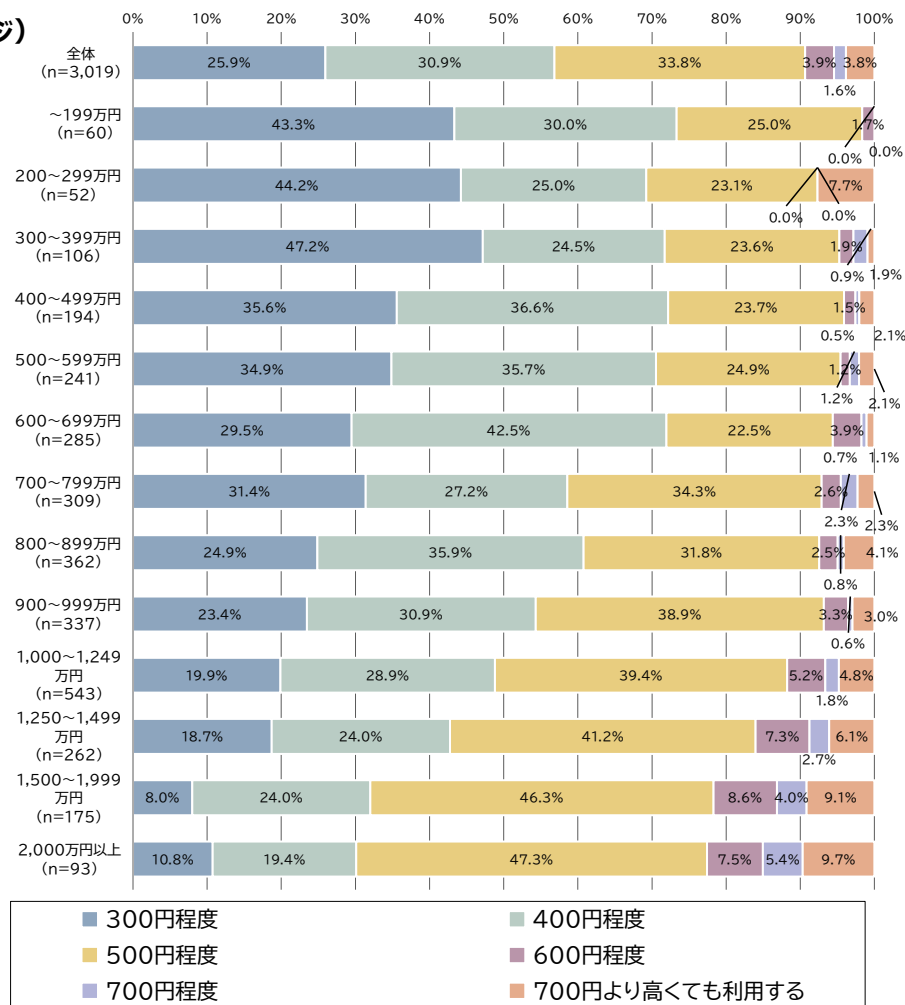
2. 保護者アンケート調査結果

(4)-3 支援ニーズ(長期休業期間中の昼食提供)

■ 世帯年収別に見ると、世帯年収が低いと「300円程度」の割合が高い傾向があり、世帯年収が高いほど「500円程度」及びそれ以上の金額の割合が高くなった。700万円未満では、400円程度以下の割合が約7割となっている。

保護者調査_昼食提供サービスの利用料金上限

■ 世帯年収別 (54ページ)



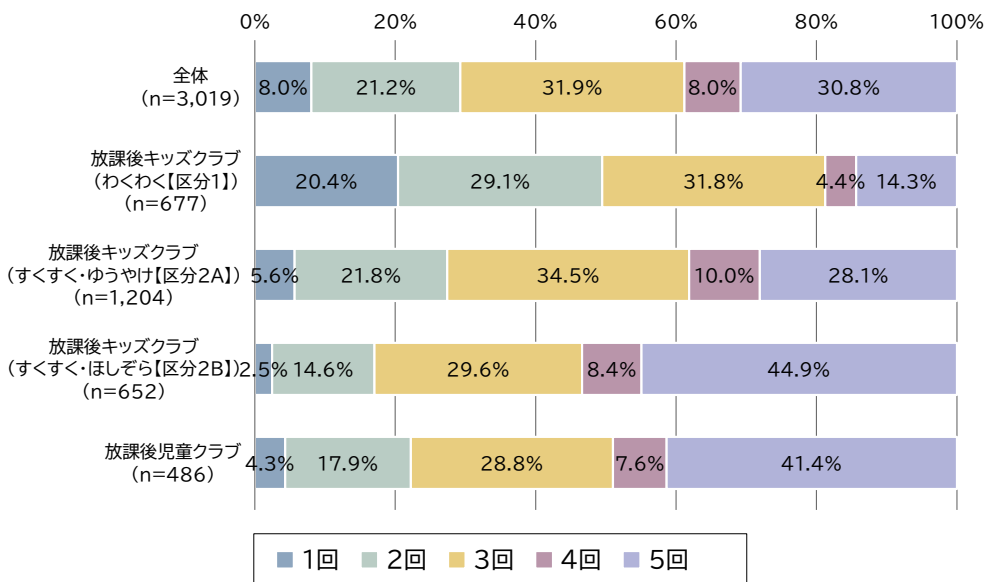
2. 保護者アンケート調査結果

(4)-3 支援ニーズ(長期休業期間中の昼食提供)

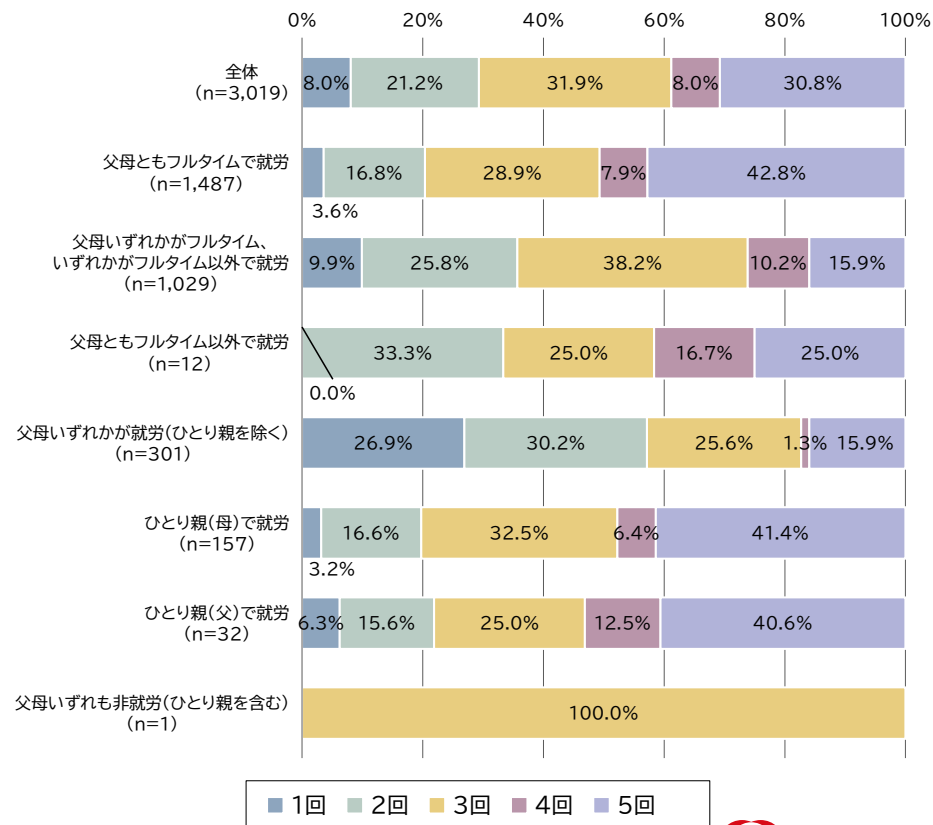
- 利用希望回数は、週「3回」が31.9%で最も多く、次いで「5回」(30.8%)、「2回」(21.2%)となっている。
- 預かり時間が長い放課後キッズクラブのすくすく・ほしぞら【区分2B】と放課後児童クラブでは、週「5回」が最も多く、それぞれ44.9%、41.4%であった。父親・母親の就労状況別に見ると、父母ともフルタイムで就労、ひとり親で就労(父、母いずれも)で利用回数が多くなる傾向が見られた。

保護者調査_長期休業期間中の昼食提供サービスの利用希望回数

■ クラブ種別・区分別 (55ページ)



■ 父親・母親の就労状況別 (56ページ)

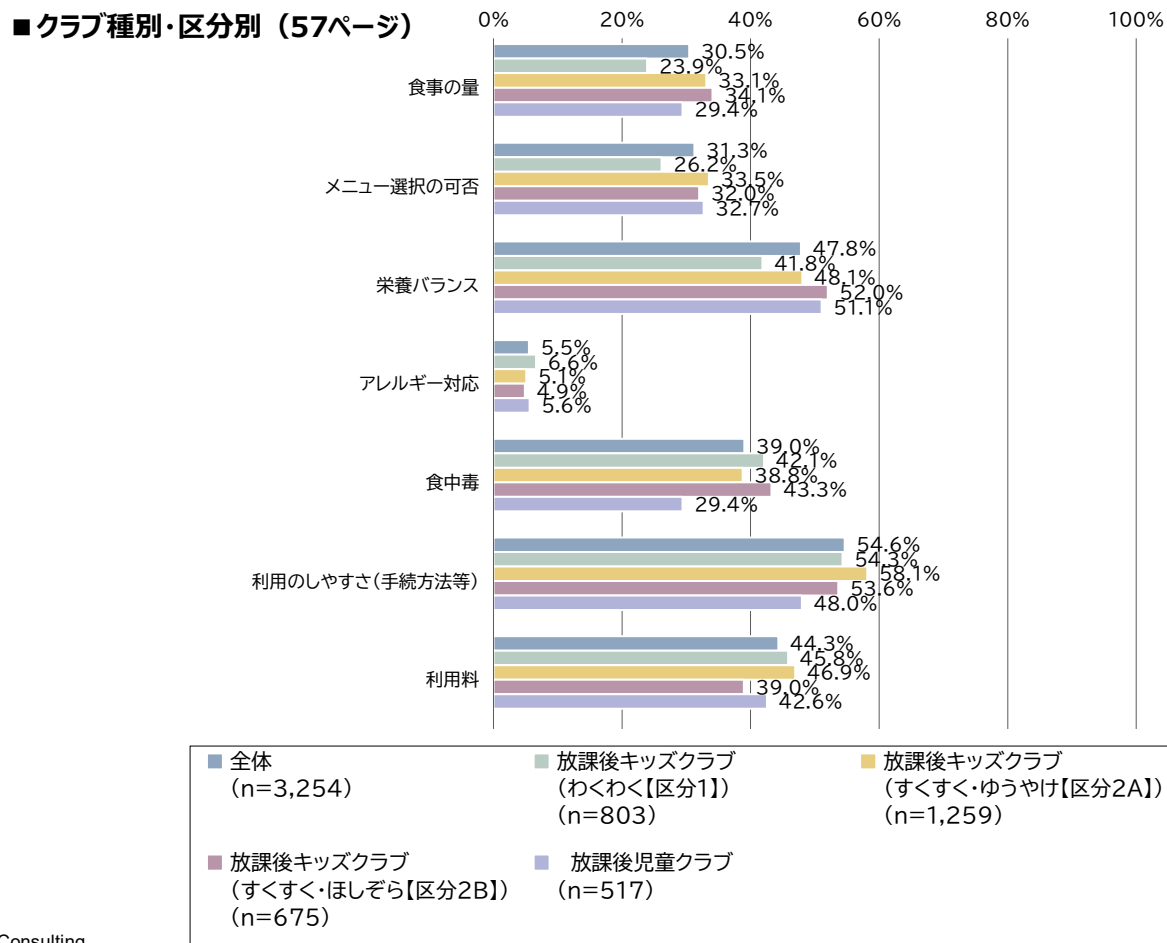


2. 保護者アンケート調査結果

(4)-3 支援ニーズ(長期休業期間中の昼食提供)

- 昼食提供サービスで気になることの1位~3位の合計を見ると、「利用のしやすさ(手続き方法等)」が54.6%で最も多く、次いで、「栄養バランス」(47.8%)、「利用料」(44.3%)の順に多かった。回答者によって多様な項目の選択となっており、昼食提供にあたっては、食事の内容・量、アレルギー等の安全対策、手続きや費用等の様々な面で配慮が求められている。

保護者調査_昼食提供サービスで気になること(1位~3位の合計)

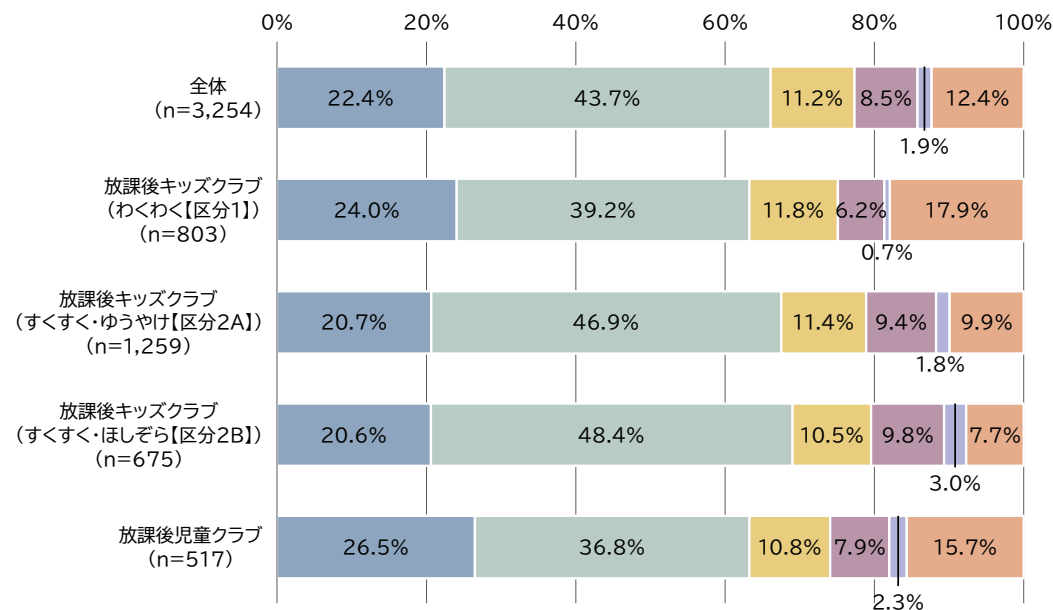


2. 保護者アンケート調査結果 (4)-4 支援ニーズ(学習サポート)

■ 保護者から学習サポートとして期待されているのは、クラブの種別・区分別を問わず、「宿題等の勉強をする時間を一律に設けてほしい」、「自分から宿題等の勉強をするように促してほしい」であった。

保護者調査_クラブによる学習サポートへの期待

■ クラブ種別・区分別 (61ページ)



- 自分から宿題等の勉強をするように促してほしい
- 宿題等の勉強をする時間を一律に設けてほしい
- 学校の授業でわからなかったところを教えてほしい
- クラブ独自の学習プログラムを設けてほしい
- その他
- 特にない

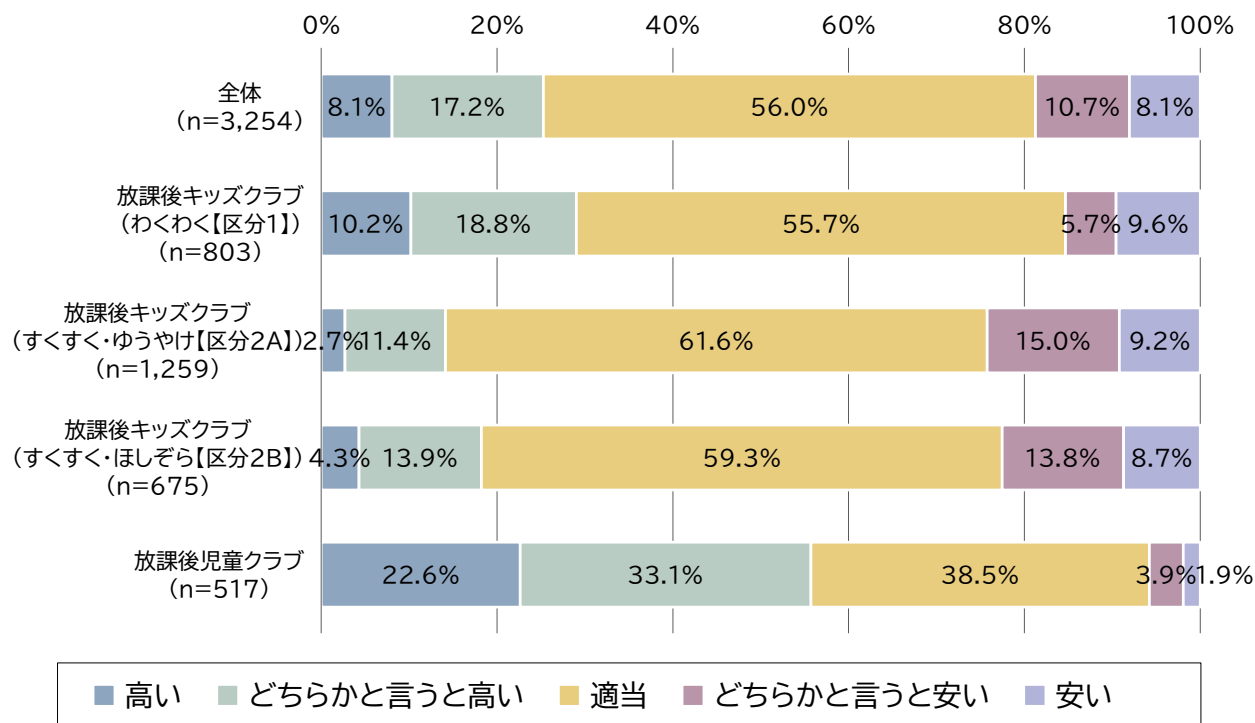
2. 保護者アンケート調査結果

(4)-5 支援ニーズ(利用料)

■ 利用料を「高い」「どちらかと言うと高い」とした割合は25.3%であった。クラブ種別・区分別に見ると、放課後児童クラブではその割合が55.7%と高かった。

保護者調査_現在支払っている利用料についての考え

■ クラブ種別・区分別 (63ページ)

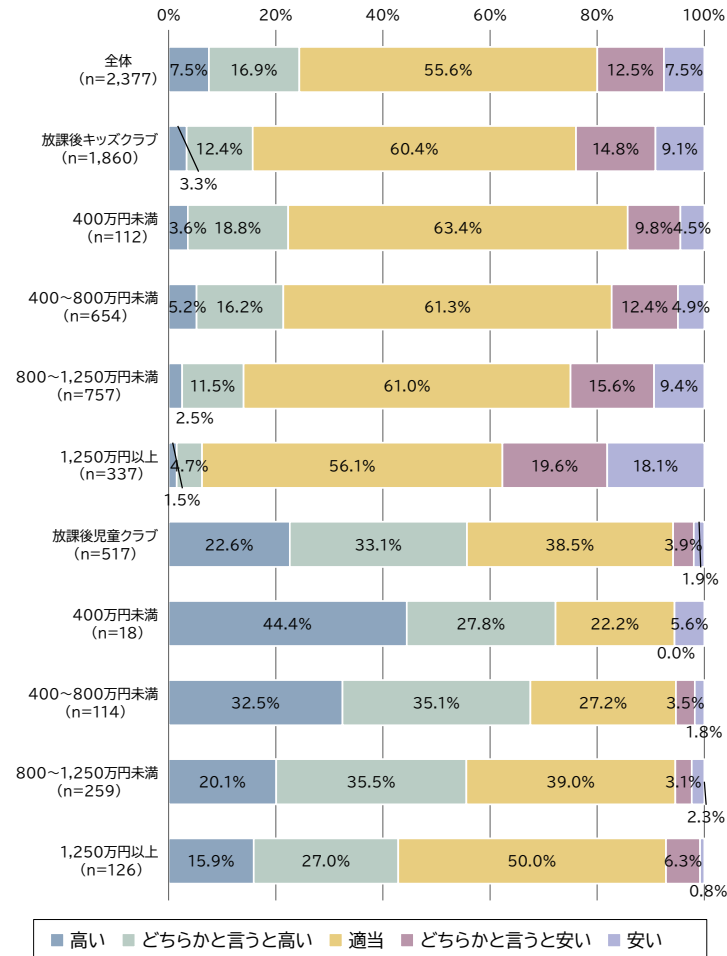


2. 保護者アンケート調査結果 (4)-5 支援ニーズ(利用料)

- 留守家庭世帯について、クラブ種別・世帯年収別に見ると、クラブ種別を問わず世帯年収が低いほど、利用料が高いと考える割合は高かった。世帯年収が400万円未満の場合、「高い」「どちらかと言うと高い」の合計は、放課後キッズクラブでは22.4%、放課後児童クラブでは72.2%となっていた。

保護者調査_現在支払っている利用料についての考え

■ クラブ種別・世帯年収別 (65ページ)



(備考) 放課後キッズクラブのわくわく【区分1】と減免を受けているすくすく・ゆうやけ【区分2A】を除く世帯が対象
(備考) 世帯年収の区分は、サンプル数の関係から統合した

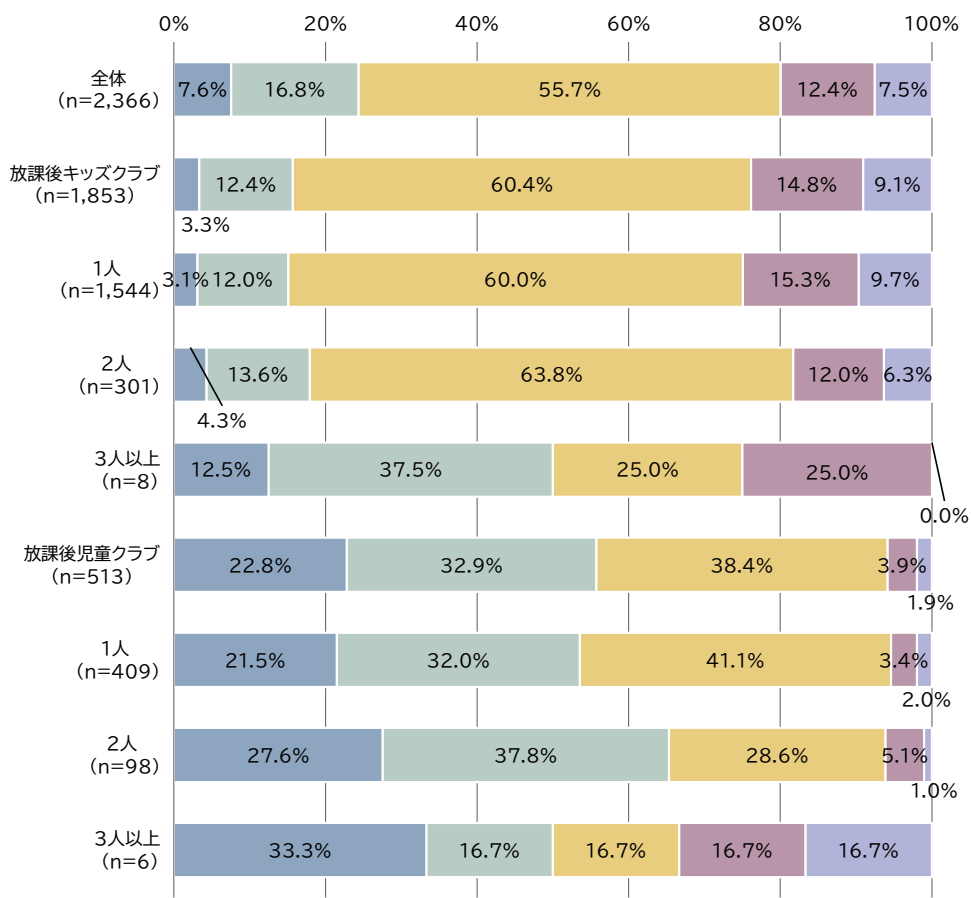
2. 保護者アンケート調査結果

(4)-5 支援ニーズ(利用料)

■ 留守家庭世帯について、クラブを利用している子どもの人数別に利用料についての考えを見ると、人数が多くなるほど、利用料が「高い」と「どちらかという」と高い」と考える割合が概ね高くなっていった。

保護者調査_現在支払っている利用料についての考え

■ クラブ種別・クラブを利用している子どもの人数別 (66ページ)



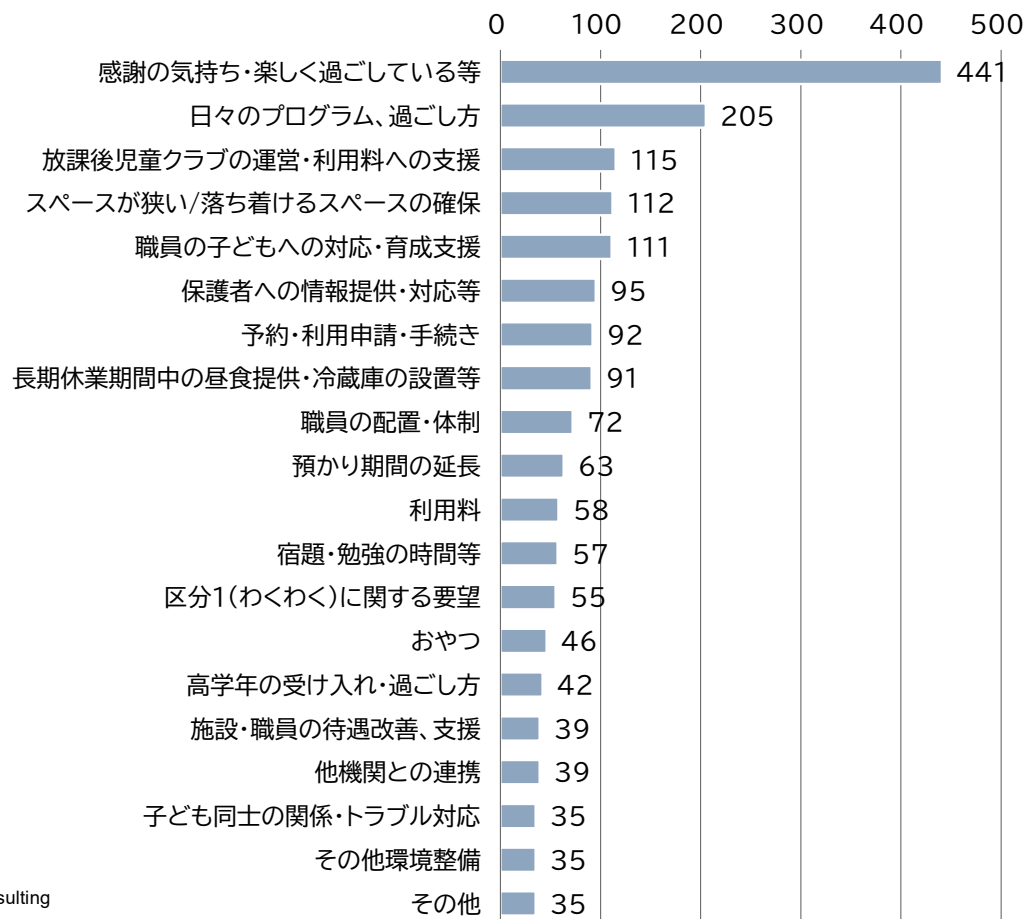
(備考) 放課後キッズクラブのわくわく【区分1】と減免を受けているすすく・ゆうやけ【区分2A】を除く世帯が対象
 (備考) 全体 (n = 2,366) には、学年無回答の11件が含まれる。

2. 保護者アンケート調査結果

(5) クラブへの要望等

- 保護者にクラブへの要望を尋ねたところ、クラブへの感謝や子どもが楽しく過ごしているというコメントが多数寄せられており、保護者の満足度の高さがうかがえた。具体的な要望としては、「日々のプログラム、過ごし方」、「放課後児童クラブの運営・利用料への支援」、「スペースが狭い／落ち着けるスペースの確保」、「職員の子どもへの対応・育成支援」、「保護者への情報提供・対応等」、「予約・利用申請・手続き」、「長期休業期間中の昼食提供・冷蔵庫の設置等」などの項目で多くの意見が見られた。

保護者調査_クラブへの要望（自由記述）（69ページ）



（備考）自由記述回答を、回答内容に応じて分類したものの。1件の自由回答の中で、複数の内容・項目の記載がある場合（複数回答）がある

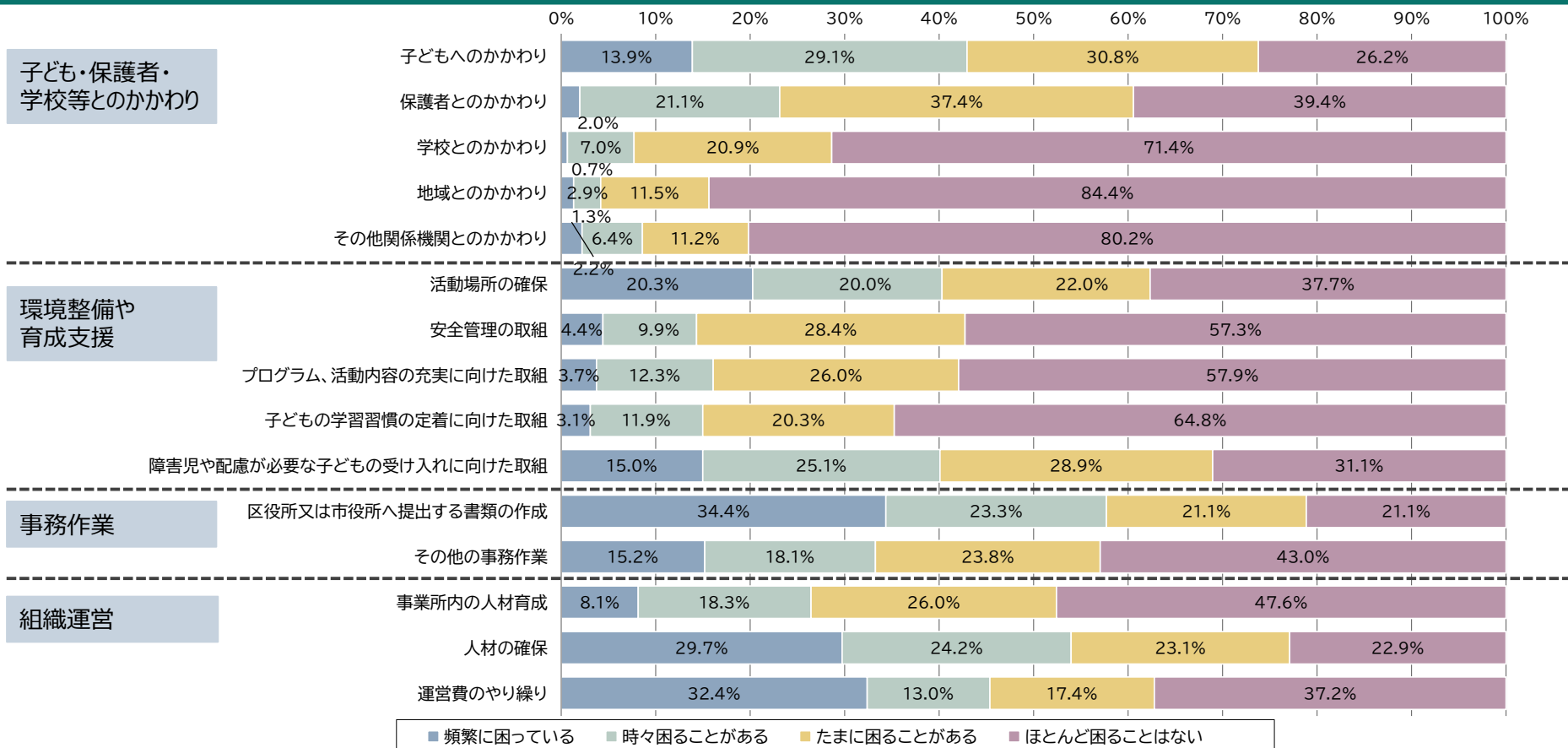
（備考）グラフでは30件以上の回答があったものを記載

3. クラブアンケート調査結果

(1) クラブにおける課題や必要な支援(全体)

■ 子ども・保護者・学校等とのかかわりでは「子どもへのかかわり」、環境整備や育成支援では「活動場所の確保」、「障害児や配慮が必要な子どもの受け入れに向けた取組」、事務作業では「区役所又は市役所へ提出する書類の作成」、組織運営では「人材の確保」、「運営費のやり繰り」で課題が多いと推察される。

クラブが困っていること (79ページ)



3. クラブアンケート調査結果

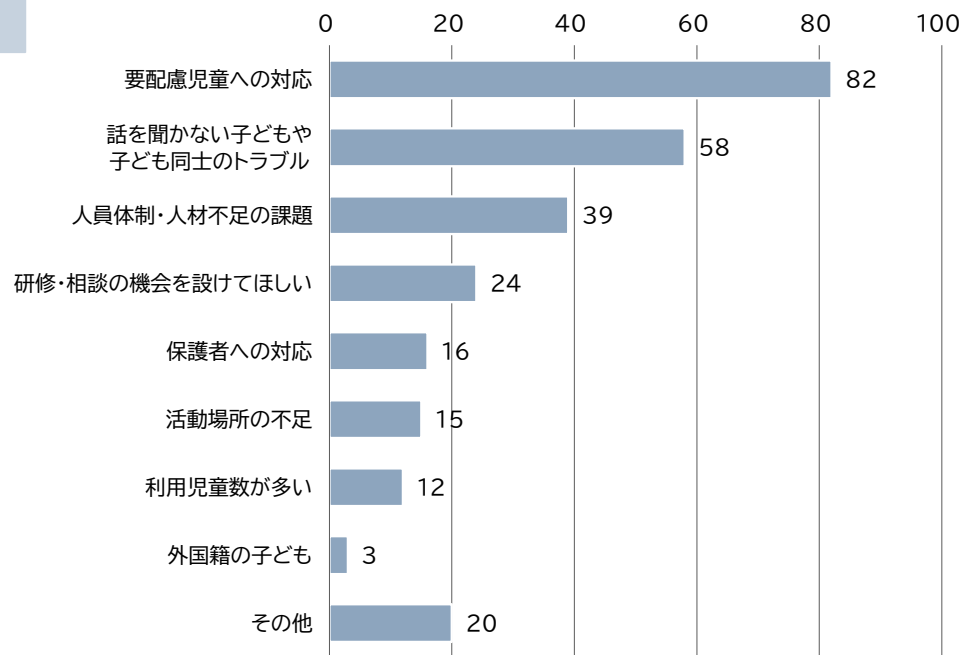
(2) クラブにおける課題や必要な支援(子どもへのかかわり)

「頻繁に困っている」「時々困ることがある」と回答したクラブにおける具体的な課題や必要な支援内容についての自由記述内容(n=171)

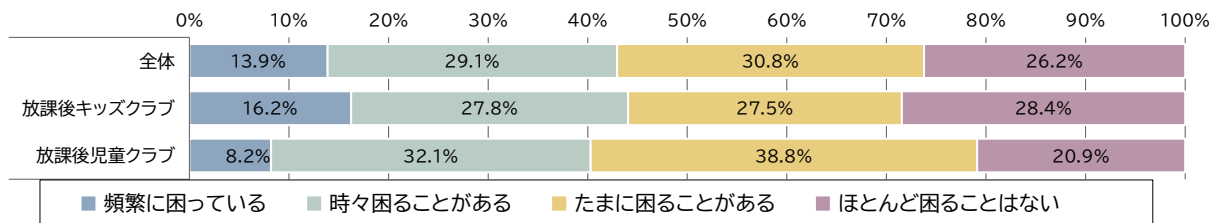
- 「要配慮児童への対応」が82件で最も多く、次いで、「話を聞かない子どもや子ども同士のトラブル」(58件)、「人員体制・人材不足の課題」(39件)が多かった。

クラブが困っていること、必要な支援（自由記述） ※困り度が高い項目について抜粋

子どもへのかかわり（81ページ）



(参考) クラブ種別でのクラブが困っていること



3. クラブアンケート調査結果

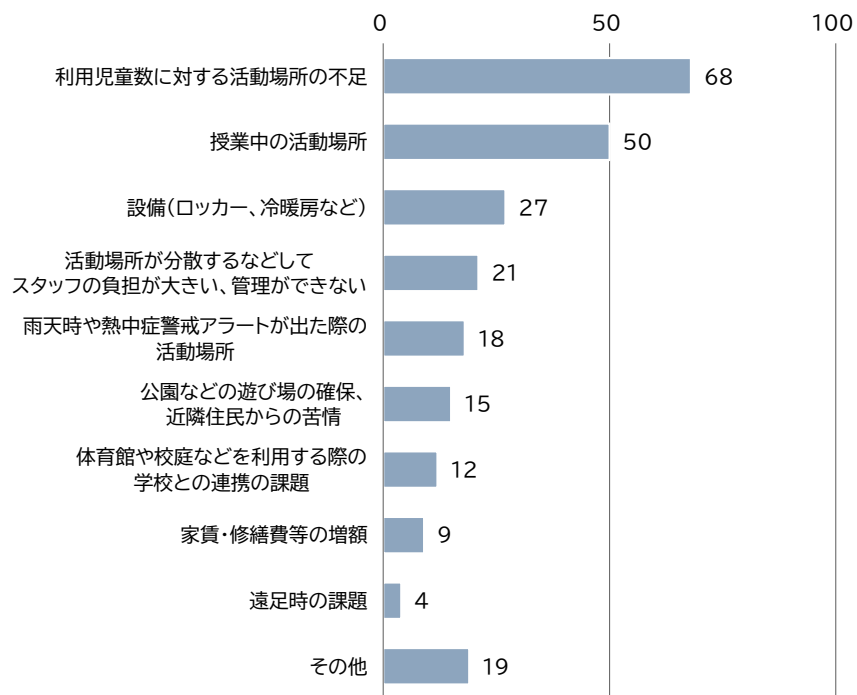
(3) クラブにおける課題や必要な支援(活動場所の確保)

「頻繁に困っている」「時々困ることがある」と回答したクラブにおける具体的な課題や必要な支援内容についての自由記述内容(n=169)

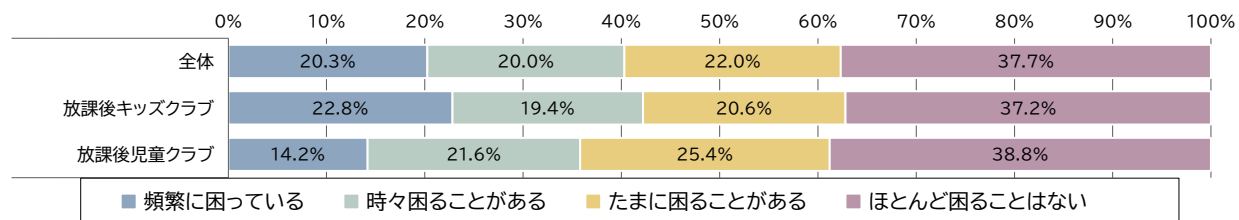
■ 「利用児童数に対する活動場所の不足」が68件で最も多く、次いで、「授業中の活動場所」が50件であった。

クラブが困っていること、必要な支援 (自由記述) ※困り度が高い項目について抜粋

活動場所の確保 (86ページ)



(参考) クラブ種別での クラブが困っていること



3. クラブアンケート調査結果

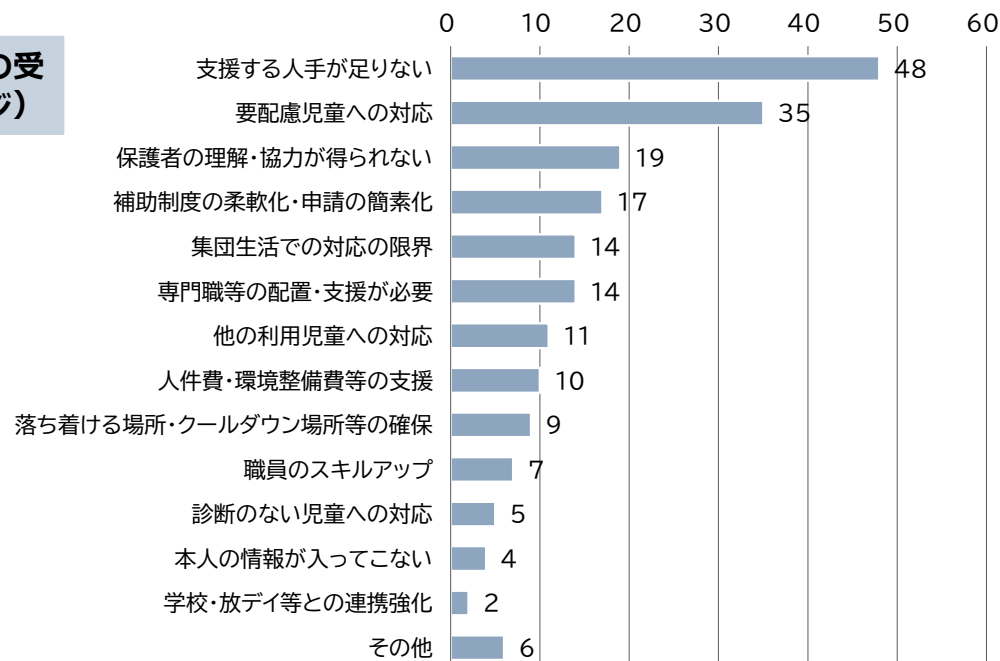
(4) クラブにおける課題や必要な支援(障害児や配慮が必要な子どもの受け入れに向けた取組)

「頻繁に困っている」「時々困ることがある」と回答したクラブにおける具体的な課題や必要な支援内容についての自由記述内容(n=156)

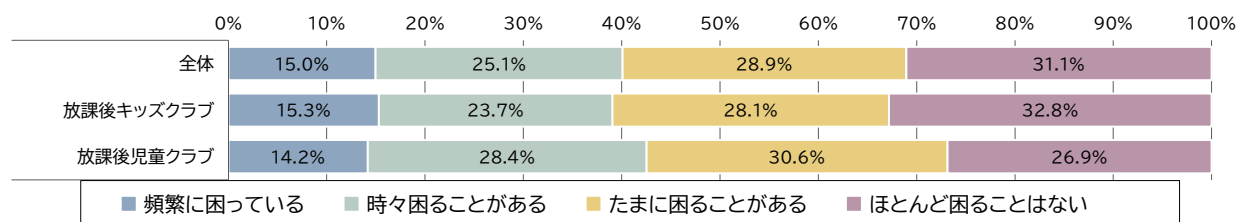
- 「支援する人手が足りない」が48件で最も多く、次いで「要配慮児童への対応」(35件)、「保護者の理解・協力が得られない」(19件)、「補助制度の柔軟化・申請の簡素化」(17件)など、多岐の意見が寄せられた。

クラブが困っていること、必要な支援 (自由記述) ※困り度が高い項目について抜粋

障害児や配慮が必要な子どもの受け入れに向けた取組 (90ページ)



(参考) クラブ種別でのクラブが困っていること



3. クラブアンケート調査結果

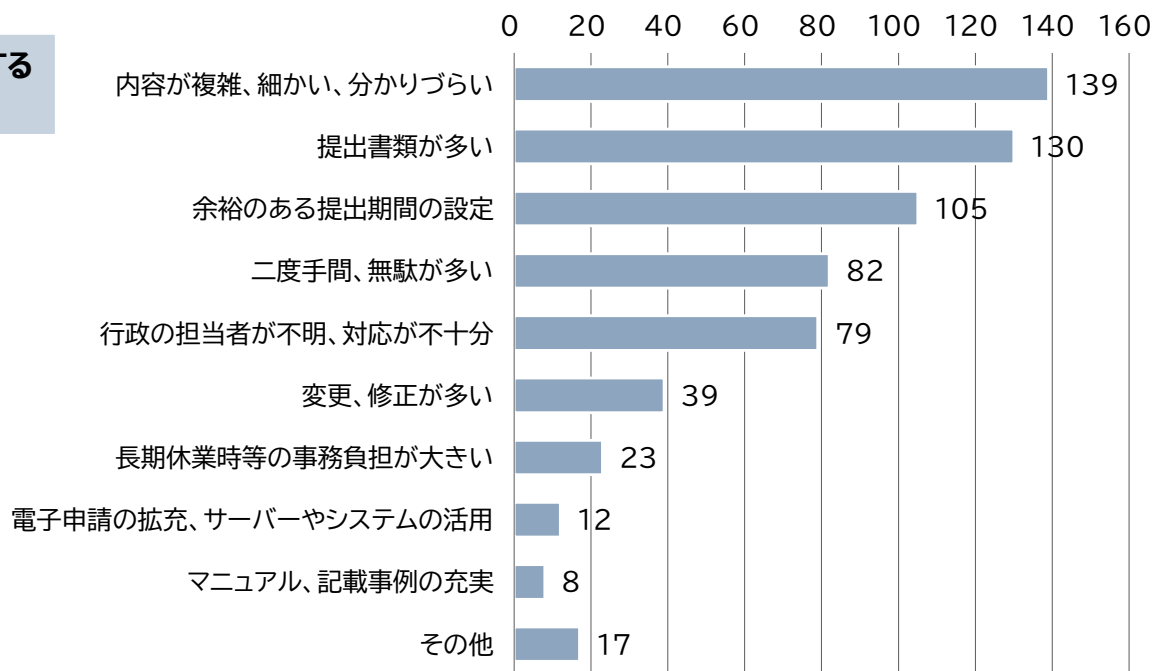
(5) クラブにおける課題や必要な支援(区役所又は市役所へ提出する書類の作成)

「頻繁に困っている」「時々困ることがある」と回答したクラブにおける具体的な課題や必要な支援内容についての自由記述内容(n=241)

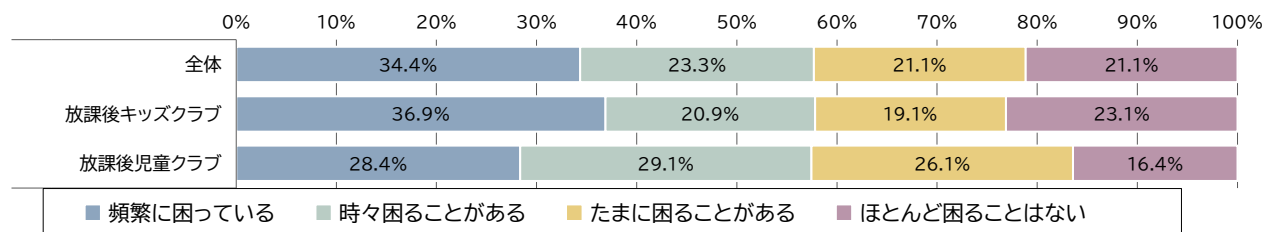
■ 「内容が複雑、細かい、分かりづらい」が139件、「提出書類が多い」が130件、「余裕のある提出期限の設定」が105件と多くの意見が寄せられた。

クラブが困っていること、必要な支援 (自由記述) ※困り度が高い項目について抜粋

区役所又は市役所へ提出する書類の作成 (91ページ)



(参考) クラブ種別でのクラブが困っていること



3. クラブアンケート調査結果

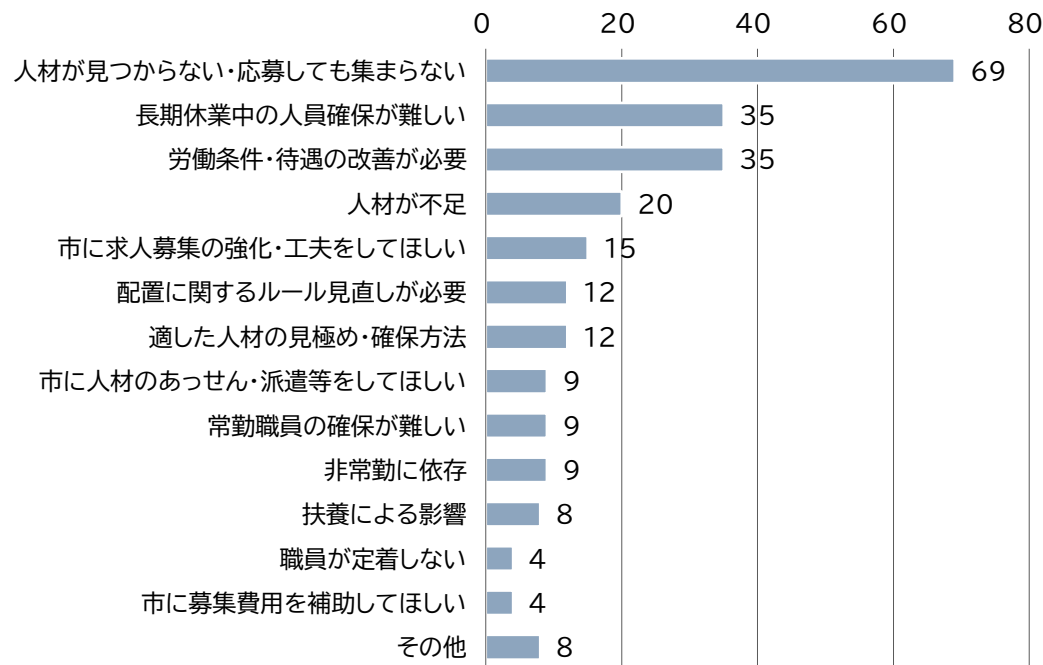
(6) クラブにおける課題や必要な支援(人材の確保)

「頻繁に困っている」「時々困ることがある」と回答したクラブにおける具体的な課題や必要な支援内容についての自由記述内容(n=208)

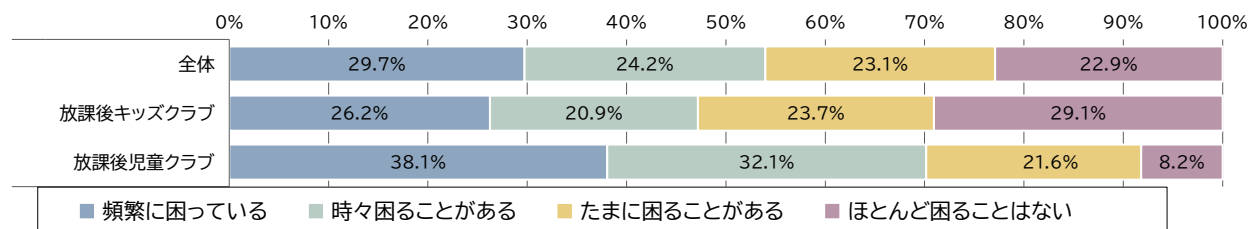
- 「人材が見つからない・応募しても集まらない」が69件と最も多かった。次いで、「長期休業期間中の人材確保が難しい」「労働条件・待遇の改善が必要」がいずれも35件であった。

クラブが困っていること、必要な支援（自由記述） ※困り度が高い項目について抜粋

人材の確保（94ページ）



(参考) クラブ種別でのクラブが困っていること



3. クラブアンケート調査結果

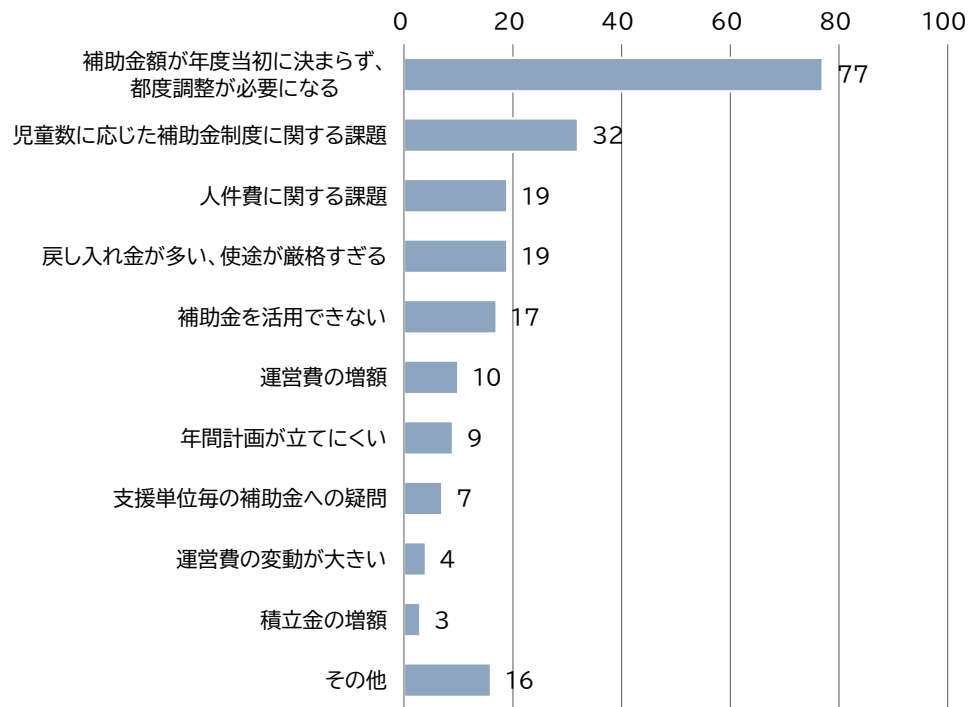
(7) クラブにおける課題や必要な支援(運営費のやり繰り)

「頻繁に困っている」「時々困ることがある」と回答したクラブにおける具体的な課題や必要な支援内容についての自由記述内容(n=184)

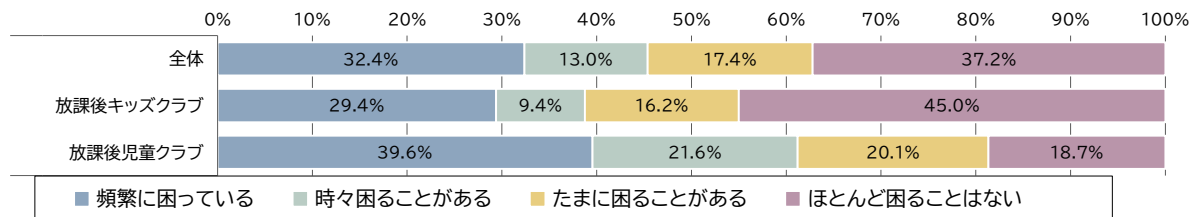
■ 「補助金額が年度当初に決まらず、都度調整が必要になる」(77件)、「児童数に応じた補助金制度に関する課題」(32件)の順に多かった。

クラブが困っていること、必要な支援 (自由記述) ※困り度が高い項目について抜粋

運営費のやり繰り (95ページ)



(参考) クラブ種別でのクラブが困っていること



4. ヒアリング調査結果

(1) 児童・保護者ヒアリング調査結果

【児童ヒアリングの主な結果】（97ページ）

■ 「キッズクラブは楽しいですか」

「楽しい」と答えた児童が83名、「楽しくない」と答えた児童（「まあまあ」と回答した児童も含む）が12名だった。

- 「キッズでどんなことをするのが楽しいですか」:「玩具で遊ぶこと」、「本・マンガを読むこと」、「友達と過ごすこと」などが挙げられた。
- 「何が楽しくない(つまらない)ですか」:「家で過ごしたい」、「遊びたいゲームが無い」、「嫌な友達がいる」などの意見が挙げられた。

■ 「キッズへのお願い」

「玩具やおやつを増やしてほしい」という意見のほか、「体育館で遊ぶ時間をもっと増やしてほしい」、「体育館にエアコンをつけてほしい」、「新しいトイレを設置してほしい」などの意見が挙げられた。

【保護者ヒアリングの主な結果】（98ページ）

■ 「小1の壁などで困ったこと」

いずれのクラブの保護者も小学校入学時点（4月当初時点）でスムーズに移行できていた。さらなる支援の充実に向けては、土曜日や夏休みの開所時間の繰り上げ、早朝や夜間での延長預かり、長期休業期間中の昼食提供、宿題を行う時間の確保、習い事への送迎等のニーズが見られた。

■ 「クラブや子どもに関する施策への希望」

ほとんどの保護者で不満はないものの、長期休業期間中の昼食提供、長期休業期間中の開所時間の繰り上げ、習い事への送迎への希望があった。また、放課後児童クラブでは、自主運営での保護者負担の大きさ、利用料の高さについて課題が見られた。

4. ヒアリング調査結果

(2) クラブヒアリング調査結果

【クラブヒアリングの主な結果】（99ページ）

■ 長期休業期間中の昼食提供

放課後キッズクラブでは、導入の課題としてアレルギー対応、注文管理や集金方法、栄養価、お弁当の保管場所、に対する懸念等が挙げられた。昼食提供実施の放課後児童クラブでは調理員の確保や食中毒への対応、食材・調理場の確保が課題であった。

■ 利用料の減免

ひとり親世帯、きょうだい児、障害児、バス・タクシーで移動する児童、それぞれの減免への言及があった。

■ 預かり時間:

一部の放課後キッズクラブでは、長期休業期間中は開所時間を待つ児童が生じていた。放課後児童クラブでは保護者からのニーズで7時半からの開所、22時までの預かりが見られた。

■ 学習支援:

放課後キッズクラブではクラブ単位で対応が分かれていた。放課後児童クラブでは宿題等に取り組む時間帯の設定があった。

■ 送迎:

放課後キッズクラブでは時間帯によって1人帰りを認めているものの、寄り道や1人帰りが難しい児童の存在等の課題が見られた。放課後児童クラブでは、保護者確認のうえ、2年生又は3年生から1人帰りを認めていた。

■ 活動場所:

放課後キッズクラブでは、普通教室の利用状況はクラブごとに異なるものの、体育館の利用はいつでも行われていた。ただし、学校施設を使用していることから、セキュリティに基づく課題が見られた。放課後児童クラブでは、地域のグラウンドやスポーツクラブを利用していた。

■ 要配慮児童等の対応

放課後キッズクラブでは障害の可能性のある児童について、放課後児童クラブでは保護者に情報共有の許可がとれない児童について、それぞれ学校との連携で課題が見られた。研修ニーズとして、クラブの状況に応じた助言、クラブ種別の研修や子どもや保護者の対応に関する研修が求められていた。

■ 人材確保

放課後キッズクラブでは大学生への支援が求められていた。放課後児童クラブでは応募者の性犯罪歴等が確認できるリストの共有、大学生へのアプローチ、人材バンク、シルバー人材センターや子育てサポートからの紹介等が求められていた。

5. 他都市調査結果

アンケート調査結果(他都市における各種取組の実施状況) (104ページ)

- 他都市を対象としたアンケート調査では、政令市・特別区及び近隣市に対して、以下の7つの取組について実施状況、実施方法、予算等について調査を行った。
- 最も実施している自治体数が多かったのは「長期学校休業日等の昼食提供」であり、28自治体(回答自治体の57.1%)が実施していた。次いで、「防犯カメラの設置」が24自治体、「車両による送迎」が18自治体で多くなっていた。いずれの自治体も保護者や児童のニーズに対して多様な取組を展開している実態が窺えた。

他都市を対象としたアンケート調査の回答状況

	取組を実施している自治体数		
	政令市・特別区	近隣市	合計
長期学校休業日等の昼食提供	19自治体	9自治体	28自治体
防犯カメラの設置	19自治体	5自治体	24自治体
車両による送迎	10自治体	8自治体	18自治体
学習支援や習い事のような活動状況 (放課後子ども教室のプログラムは除く)	8自治体	4自治体	12自治体
登校前の預かり	5自治体	3自治体	8自治体
宿題等をサポートする人の配置 (放課後健全育成事業としての配置以外)	6自治体	1自治体	7自治体
その他	1自治体	—	1自治体

6. 海外調査結果

諸外国の放課後活動の目的と取組概要（109ページ）

- 諸外国の放課後活動の目的は、子どもの権利保障、保護者の仕事と家庭の両立支援、社会的格差の是正、私教育の過熱の抑制の4つに大別された。保護者の仕事と家庭の両立支援を目的とする国では、各国の状況に応じて、食事の提供、朝の預かり、送迎等が行われている。

放課後活動の目的	該当する国・地域	特徴
子どもの権利保障	フランス、スウェーデン、フィンランド、イギリス 等	子どもが充実した余暇を過ごす権利の保障や、子どもの権利としての幸せを促進することを目的とし、親の就労状況等によらずすべての子どもを対象として放課後活動を実施している国々。北欧では、職員に求められる資格レベルが高いことや、開所時間が長いことも特徴。
保護者の仕事と家庭の両立支援	ドイツ、オーストラリア、台湾 等	共働き家庭の子どもの放課後の居場所として、放課後活動の整備を行っている国々。保育サービスの一環として位置づけられている。 ※ただし、他の類型の取組においても、両立支援は目的の一つとして含まれている。
社会的格差の是正	アメリカ 等	子どもに安全な時間帯を保障するとともに、社会格差を縮めるための機会を提供することを目的として、特に貧困層や移民など社会的不利におかれた子どもたちを主な対象として放課後活動を実施。
私教育の過熱の抑制	韓国・中国 等	入試中心の過度な教育熱と私教育の増加に対する非難を解決するため、 <u>私教育の負担解消</u> を目的として、放課後活動を実施。

国名等	事業名	対象年齢	開所時間	食事提供	特徴
ドイツ	学童保育所	6～12歳	7:00～8:30、 12:00～ 17:30	昼食提供	<ul style="list-style-type: none"> 午前中のみで終了する学校が多いことから、共働き家庭の子どもが主な利用者層。学校給食もないため、学童保育所での昼食提供は大きな任務となっている。 ただし、近年は午後にもプログラムを提供する全日制の学校が増加しており、閉鎖する学童保育所も出てきている。 また、親の働き方として労働時間が短く、短時間正社員も利用しやすいため、子どもが学齢期に達してもパートタイムで働く女性が多いことから、特に旧西ドイツにおける利用率は低い。
オーストラリア	ビフォー／アフタースクールケア	5～12歳	7:00-9:00、 15:00-18:00	一部朝食や軽食を提供	<ul style="list-style-type: none"> 対象は学齢期だが、保育サービス的一种として認識されており、学校とは別施設での実施。 自宅と施設の移動は、基本的に親による送迎だが、学校と施設への移動は、専用バスや学童から迎えのスタッフが来て徒歩移動する施設が多い。
台湾	幼児託児保育センター（安親班）	12歳以下	授業終了後～ 最長20:00	昼食・夕食提供	<ul style="list-style-type: none"> 小学校低学年は午前中で授業が終わるため、共働き家庭の多くが利用。施設から学校はバスで送迎。昼食・お昼寝・宿題・おやつを食べ、16時ごろ帰宅するパターンが多い。 希望すれば、音楽やスポーツなどの課外活動や夕食提供も別料金で実施。

7. 今後の施策の方向性

質の向上に向けた横浜市の今後の施策について(提言)

1. 児童視点での支援の充実 (115ページ)

■ 高学年が利用しやすくなるような取組の推進が必要

- アンケートの結果から、ほとんどの子どもがクラブでの活動を概ね楽しんでいることがわかっており、クラブによる支援が十分に行われていると考えられる。低学年に比べると高学年の利用児童が少ないことは、事業の特性上やむを得ないものではあるが、プログラムの充実や、児童の集団において学年ごとに役割を与える等、高学年が利用しやすくなるような取組を推進していくことが求められる。

■ 活動場所やプログラムの充実に向けて、学校施設の更なる活用や市によるプログラムに係る支援強化が必要

- 保護者が考える「お子様がクラブに「もっと行きたい！」と思えるように、さらに充実するとよいと思うものを選んで下さい」という設問では、活動場所やプログラムに関するニーズが確認されている。
- 特に、放課後キッズクラブの活動場所の確保にあたっては、学校との連携が重要であるため、特別教室や普通教室の活用拡大等に向けて、教育委員会も含めた連携を強化し、学校施設の更なる活用に取り組む必要がある。
- プログラムの充実に向けては、クラブでは上記活動場所の確保における課題に加え、職員体制にも課題を抱える状況であり、各クラブが個別にプログラム実施のノウハウを持つ人材を新たに確保することは難しい面も多い。そのため、市からのプログラムの紹介やクラブでの取組の共有など、クラブへの支援の強化を行っていくことが重要と考えられる。

7. 今後の施策の方向性

質の向上に向けた横浜市の今後の施策について(提言)

2. 保護者視点での支援の充実 (115ページ)

■ クラブへの支援を充実させることで、安全・安心な放課後の居場所を提供していくことが必要である

- ・ 「スタッフの対応」「活動内容」「環境や安全対策」について、保護者の満足度を調査した結果、いずれの項目でも9割前後が概ね満足していると回答しており、保護者が安心して子どもを預けられる環境が整っている状況であることがわかった。引き続き、クラブへの支援を充実させることで、安全・安心な放課後の居場所を提供していくことが必要である。

■ 「小1の壁」の解消に向けて、多岐にわたる課題への対応策の検討が必要

- ・ 小学校入学後、保育所に預けていた時よりも育児に関する負担が増加し、仕事との両立が難しくなる、いわゆる「小1の壁」の問題に関しては、本アンケート調査結果においても、保護者が負担に感じていることとして「長期休業期間中の昼食提供」や「帰宅後、子どもの宿題を見る時間」が上位となったように、「小1の壁」の解消に向けた支援が求められていると言える。アンケート結果からは、「経済的負担」「預かり時間のミスマッチ」等、「小1の壁」に関連する課題に関して、多岐に渡ってニーズが存在することが判明しているため、支援を行うクラブの負担にも配慮しつつ、幅広い対応策を検討する必要がある。

■ 放課後児童クラブについては保護者の活動・運営負担の軽減が求められる

- ・ 放課後児童クラブにおいては、保護者が運営に携わる方式のクラブが多くあるため、放課後キッズクラブに比べて、「クラブの活動・運営への参加」に関する負担が高い傾向となっている。「3. クラブ視点での支援」でも触れるが、事務作業や組織運営に関する負担を軽減することは保護者支援の観点からも重要と考える。

7. 今後の施策の方向性

質の向上に向けた横浜市の今後の施策について(提言)

3. クラブ視点での支援の充実 (116ページ)

■ 書類作成の負担軽減のために、DXの推進等による効率的な仕組みの構築が必要

- 事務作業や組織運営に関して課題を抱えているクラブが多いことがアンケート結果から判明している。中でも、「区役所又は市役所へ提出する書類の作成」が負担となっているクラブが多く、今年度から横浜市が取り組んでいる事業のDXを着実に推進していくことが必要である。なお、DXの推進にあたっては、手続きのオンライン化にとどまるのではなく、クラブの事務作業の軽減につながる仕組みを目指すことが重要である。

■ 人材確保に向けて、事業の認知度向上、労働環境改善等の多角的な市の支援強化が必要

- 「人材確保」については、アンケート結果において「クラブが募集を行っても人材が見つからない、集まらない」「長期休業期間中の人員確保が困難」「労働条件・待遇の改善が必要」「市に求人募集の強化・工夫をしてほしい」「配置に関するルールの見直しが必要」等、多様な意見が挙げられており、クラブが人材確保を進めるためには、市における支援の強化が必要である。
- 全国的に慢性的な人手不足と言われている状況の中でも、クラブの人材確保を進めるためには、直接的な処遇の改善以外にも、事業の認知度の向上や労働環境の改善等の様々な手法により、人材を確保しやすくなるような取組を進めることが有用であると考えられる。

■ 要配慮児童への支援は体制、環境、支援方法で課題であり、市による支援が必要

- 児童の育成支援にあたっては、障害児や配慮が必要な児童の対応に関して「人員やスペースの不足」「保護者の理解・協力が得られない」など、多くの課題が挙げられている。クラブが求める支援体制についてみると、「補助制度の拡充」「専門職等による支援」等が示されていた。これらの対応については、クラブだけでなく、児童・保護者への支援とも密接に関わることから、引き続き、市による支援を推進していくことが求められる。